

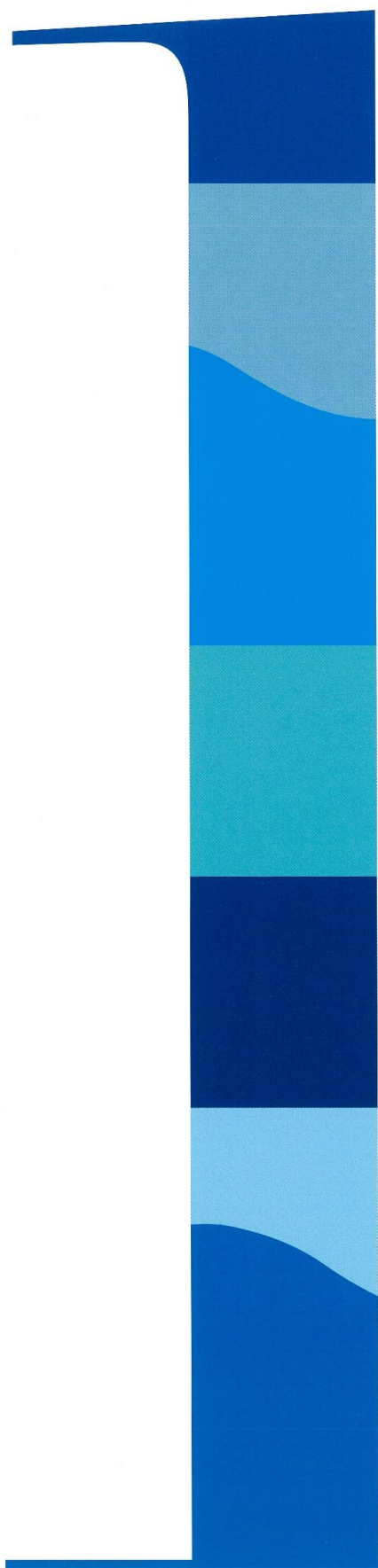


Gifu Land of Clear Waters
Art Festival

THE 1st
GIFU
ART
EXHIBITION

清流の国ぎふ芸術祭

第1回
ぎふ
美術展



清流の国ぎふ芸術祭

第1回ぎふ美術展

Gifu Land of Clear Waters Art Festival

THE 1st GIFU ART EXHIBITION

平成30年6月9日(土)ー17日(日)

主催:岐阜県・岐阜県美術館

公益財団法人 岐阜県教育文化財団

目次

2 ごあいさつ

4 審査員講評

12 受賞作品

26 出品目録

30 関連プログラム

36 応募要項

39 応募状況

40 広報

43 来場者アンケート

44 運営体制

45 企画委員長総評

ごあいさつ

本県では、昭和21年から平成27年まで、69回の歴史を刻んだ「岐阜県美術展」を、時代の変遷や表現の多様化に合わせて刷新し、新たに、創造力溢れる新たな才能の発掘と育成を目的とした企画公募展「Art Award IN THE CUBE」、皆様が広く発表する機会の提供と、創造力、鑑賞力の向上に役立てていただくことを目的とした公募展「ぎふ美術展」、より多くの県民の皆様が美術を身近に感じ、親しみ、参加するきっかけとなることを目的に、県内各地で体験型プログラムを展開する「アトラゴぎふ」の3つを柱とする「清流の国ぎふ芸術祭」として、再スタートしました。

記念すべき「第1回ぎふ美術展」には、県内外の3歳から91歳まで幅広い年代の皆様から、955作品の応募をいただきました。

さらに、文化功労者や重要無形文化財保持者など各分野の第一人者である14名の審査員による厳正な審査を経て入選した357作品を展示した本展は、9,500名を超える皆様にご覧いただきました。応募作品数、観覧者数とも、前回の旧県展を大きく上回り、一定の成果を得ることができたと考えておりますが、これもひとえに、本展の開催にあたり格別のご協力とご支援を賜りました皆様のおかげであり、改めて深く感謝申し上げます。

引き続き、県として、新しく生まれ変わった「清流の国ぎふ芸術祭」が着実に育ち、これを通して新たな岐阜の芸術文化が生まれ、溢れ出すよう努めてまいります。

岐阜県知事 古田 肇

歴史ある「岐阜県美術展」をリニューアルし「第1回ぎふ美術展」を開催したところ、第69回岐阜県美術展を大きく上回る955点の応募がありました。

作品規格をサイズ、重量ともに大幅に緩和したことで、これまでの県展では見られなかった大作も数多く出品されました。ご来場いただいた皆様からは、「老若男女問わず開かれた美術展になった」、「若々しく明るい展覧会に変わった」といったご意見を多数いただきました。特に、審査員の先生方にご出演いただいたクロストークでは、「芸術文化に関心を持つことができた」、「自分に足りなかったことを分かっていただいた」といったご意見をいただき、所期の目的に向け一歩前進できたのではないかと考えております。

一方で、新設した自由表現部門では従来の枠には収まらない思い切った作品が見られなかったとして「ぎふ美術展賞」が該当なしに終わったこと、会期が短かったこと、作品講評会のあり方など検討すべき課題が多々あることも分かりました。審査員の先生方や来場者の皆様からいただいたご意見を参考に、岐阜から新たな芸術が“うまれる。あふれだす。”ぎふ美術展をめざして今後とも取り組んでいきたいと考えております。

最後に、「第1回ぎふ美術展」の開催にあたり、格別のご支援を賜りました企画委員、審査員の諸先生方ならびにご協力いただきました関係各位に深く感謝申し上げます。

公益財団法人 岐阜県教育文化財団 理事長 高木 敏彦



審査員講評

日本画部門

佐藤美術館学芸部長

立島 恵

Tatejima Kei



全体的な印象としては、丁寧に描かれた端正な作品が多く見られました。

ぎふ美術展賞受賞作「いのちの子守唄」は生命という言葉ば哲学的なテーマを日本画のさまざまな素材、技法を織り交ぜ果敢に表現していました。また優秀賞の「漂泊の白」は、霽に煙る都市を繊細でしなやかな線と独特な空気感で心象的に、同じく優秀賞の「鬼灯」はほおずきを高度な日本画の技法により近視眼的にあらわしている共に優れた作品でした。この3点の作品についての優劣はまったくと言ってよいほどなく、評価は非常に拮抗していたことをここに記しておきたいと思います。

残念だったのは、優れた水墨の作品がなかったこと、そしてなによりも今までの日本画を突き破るような新しい挑戦が少なかったことです。今を生きるリアリティーが表出する。そんな表現に是非挑戦していただけることを心より願います。

日本画家
武蔵野美術大学教授

西田 俊英

Nishida Shunei



第1回のぎふ美術展ということで、期待を持って審査をさせていただきました。意欲的な作品も多数応募され、時間をかけ慎重に審査致しました。ぎふ美術展賞に選出された「いのちの子守唄」は、生命の誕生を象徴する胎児の巨大なフォルムが大画面に描写され迫力があると同時に、美濃地方の薄美濃紙を揉み紙にし、張り合わせた複雑な表面のマチエールに、技法的にも独特な工夫がありました。半透明の羊水をイメージする余白に生命の幽かな気の流れを予感させ、画面に近づく宇宙の粒子の一粒一粒のような無数の点描が施されているいのちの波動が聞こえてくるような作品となっていました。優秀賞の「鬼灯」は、垂らし込み法で、墨と淡彩色とが自然の滲みで溶合った流動的な空間に、写実的に細密に描かれた鬼灯のモチーフが重力から解放され、空中を浮遊しているような不思議な感覚が面白く、装飾性とリアリティが上手く共存した作品です。もう一点の優秀賞の「漂泊の白」は、洋風な街並の一角を、ドローイングの黒と白の軽快なコントラストと多彩なハーモニーで描写されていますが、具象的な建物群は白の色面で少しずつ消え、被膜され、やがて抽象的な構成美へと変化していく面白さに惹かれました。奨励賞に選ばれた4作品もそれぞれに魅力ある作品でした。「出立の鼓動」は、銀箔を上手く使用することによって、早朝のホームの動きのある空気感を表現していました。「ヒカリヘ」は、猫の視線の先に輝く平原が味わい深く、質の高いマチエールの技法が活かされていて、人間ドラマの趣がありました。「水平線のネオン」は、大画面を日本画の岩絵具水干絵具とパステルとの混合技法で描写されていますが、色彩が美しく融合し、創造性も豊かな絵画世界を創っていました。「木漏れ日」は、瑞々しい色彩と丹念な描写で、熱帯地方の巨樹の持つ鮮やかなエネルギーと樹葉の間の光線が共鳴し、気持ちのいい作品となりました。その他、未来に期待できる作品も多く、次回のぎふ美術展が楽しみです。



洋画家
東京藝術大学名誉教授

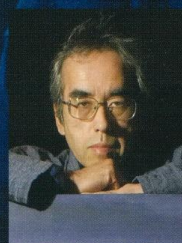
絹谷 幸二
Kinutani Koji

多くの力作が出品された中で、第1回ぎふ美術展洋画部門におけるぎふ美術展賞は市川あずさんの作品「naive」が選ばれました。センスにあふれ、他に類を見ない正方形の組作で、進取の気持が絵に満ちており、将来が楽しみです。

優秀賞となりました土岐尚弘さんの「裸婦」は形象生命の力強さが感じられました。特に画面中央から下半身に至る筆跡は目をみはるものがあります。可知則雄さんの作は油絵のマチェールや構図に優れたものがありました。

奨励賞の有賀正季さんの大作は、ほのぼのとしたユーモアあふれる作品で年齢を越えた絵心が感じられて新鮮です。そして生命の誕生の深さを軽やかでやさしいまなざしで描いた青木千賀子さん。モノクロームで人間の苦悩を見つめた久古春輝さんなど絵画は描くその人の心の中がおのずと映し出される鏡だということを我々にしらしめてくれました。

最後に入落を問わず描く皆様の力作が数多くあったことを記しておきたいと思います。



洋画家

小笠原 宣
Ogasawara Nobu

入選入賞された方々に、心からお祝い申し上げます。栄えある“第1回 ぎふ美術展”の歴史に名を刻まれることが出来たのですから。先ずは、落選作品を極力減らす審査を心がけ、結果的に百点を越える圧巻の洋画展示コーナーとなりました。「上手いのは選ばないぞ!」を合言葉に若々しくも勢いのある作品展示になったのではと自負しています。ただ、“具象命”の私としては、少し物足りなさが残ったのも事実です。自身の住み慣れた我が家・パレットに安住安眠を許さない新たな“迫真具象力作家”との出会い、心待ちにしています。



彫刻家
京都市立芸術大学名誉教授

小清水 漸
Koshimizu Susumu

審査にあたってまず抱いた印象は、素材と表現技法に偏りがなく、幅広い作品が出されているなということであった。この様に多様であると、比較しづらく審査に困るのではないかと思われた。しかし1点ずつ詳細に見ていくにつれ、自ずから内容の深さ、技法の確かさの違いが立ち現われてきた。

ぎふ美術展賞に選ばれた作品は、鑄造技術を能く識る人の手になるものだろうと思われる。比較的小品ながら小さな空間をうまく使って、ダイナミックな動きと劇的な空間を持つ彫刻に仕上がっている。

優秀賞は、楽しみながら丹念に作られた作品と、直截な表現意志のはっきりした作品の対照的な2点が選ばれた。

今展の出品作の多様さと出品者の年齢の幅広さは、改組された「ぎふ美術展」第1回に相応しく、県民諸氏の期待の現れであろうと推察する。この展覧会の審査に立ち会うことのできた幸運に感謝している。



彫刻家
東京藝術大学名誉教授

澄川 喜一
Sumikawa Kiichi

清流の国ぎふ芸術祭「第1回ぎふ美術展」の審査に当たって応募作品28点を拝見し、各作品がそれぞれ個性に富み、努力作にわくわくしました。

審査の結果、田中厚好さんの「罌—WANA」が、めでたくぎふ美術展賞に選ばれました。ブロンズ鑄造で出来る湯口（熔銅の流れ道）などをそのまま残し、鳥の彫刻とからみ合わせた不思議な「かたち」を造り出しています。魅力的な作品として注目されました。青木初彦さんの「TSUBAKURO」は木材と竹とはり金を使った細身の塔の上部にTSUBAKUROが舞う楽しい造形が彫刻になっていました。

その他の受賞作をはじめ、それぞれの作品の努力の結晶が発表されます。

第2回ぎふ美術展が楽しみです。



工芸評論家
多摩美術大学教授

外館 和子
Todate Kazuko



陶芸家

今泉 今右衛門
Imazumi Imaemon

工芸の素材領域は多様である。本展にも代表的な陶芸、染織、漆芸、木工、金工、七宝、ガラス、人形などのほか、綿絵、押し絵など実に多様な種類の作品が一堂に集まった。工芸の魅力は素材と技術を駆使して創造的な表現に至る事だが、単に手数をかけるだけでなく、その工程が最終的に表現効果となっている事が重要である。その上で、新鮮な発想や切り口が示されているかどうかを選考の基準とした。最高賞の「遥かなる音色 湾の響」は従来の漆と螺鈿(貝)の関係を問い直すような、乾漆と貝の新たな関係が構築されている。自然の巻貝を加飾の材料ではなく、成形の起点に置き、それを乾漆のダイナミックなフォルムの曲面へと展開した作品である。徹底した砥ぎの技術で艶をあげたことで、表現に説得力も生まれている。工芸はアイデアだけでは形にならない。それを観る人に感動を与えるレベルにまで具現化する情熱と意欲が問われるのである。

工芸とは、素材や技術に対して、現代の感性で何を創造するかという部門である。

今回、審査会場での第一印象は、多種多様な作品が溢れている感じがした。一点一点丁寧に見ていくと、作家それぞれの思いが伝わり、技術・思い・感性がいかに融合されているか、未来への可能性が感じられるかが審査の判断基準になった。

入賞作のぎふ美術展賞の漆の作品は、漆の装飾素材である貝と漆の融合という感性と形状的・色彩的な美しさが評価された。優秀賞の織の作品は制作の時間の積み重ねが美しさに昇華した点が、陶芸の作品は「手」というテーマの土のマチエールの存在感の魅力が評価された。奨励賞はそれぞれ工芸の未来への可能性が感じられた。その中でも、恐竜のオブジェは形状の魅力と同時に、思いを込めるという創造の原点が感じられた。

工芸の将来に期待する審査であった。



出光美術館学芸課長

笠嶋 忠幸

Kasashima Tadayuki



書家

大東文化大学名誉教授

新井 光風

Arai Kohji

新生、1回目の公募展とあって、意欲ある作品が多数集まった。書部門の出品総数は倍増。これは、応募規定が見直され、特に作品の大きさや年齢などの制限が緩やかになった事に要因があるだろう。ただし、主催側が予測していた作品基準と実際に出品された作品との間には、大きな理解の乖離があったと認められた。つまり作家的趣向の作品と、いわゆる教育現場の延長線にある実作品とを、同じ土俵に乗せて審査することは困難なのである。そのため今回は、書体書風やテーマ、制作意図の有無、素材、そして出来映えなどの総合的観点から評価するよう意識して審査した結果、5点の秀作が受賞となった。ぎふ美術展賞の竹庵氏「除夜」をはじめとする受賞作は、いずれも練度の高い作品であったものの、現行の現代書の枠組みに沿った作風であった点に課題を残した。古典や名筆に学んだ基礎を磨くことと共に、もっと既存の枠にとられない、自由かつ斬新な発想による実験作も、今後は多数出品されることを期待したい。

ぎふ美術展によせる出品者の熱意と共に、表現力豊かな作品と対面することが出来て大変嬉しく思います。

それぞれの作品からは努力の累積が読みとれ、当然のことですが、いい作品は見のがさない、という心構えて審査をさせて頂きました。

入賞作品は、積極的に新しい扉を切り開こうとする意欲的な作品で、一画一画から作者の心の鼓動が伝わってきます。また古典に立脚しながらも現代の風を吸い込んだ新鮮な作品、技法の練度が読みとれ、質の高さを感じます。

入選作品も多種多様で特色があり、鑑賞者を楽しませてくれることでしょう。僅差で入賞を逃した作品や、入選にならなかった作品があったということを附記しておきます。

出品者みなさんのより一層のご努力とご活躍に期待してやみません。

審査員講評

写真部門

石橋財団ブリヂストン美術館副館長

笠原 美智子

Kasahara Michiko

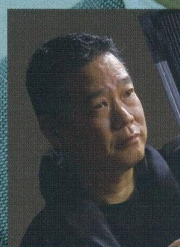


映像の時代と言われる現代、わたしたちの生活は膨大なイメージに満ちています。既視感を持つ作品が多く出品されていた一方で、独特な画面構成と視点のおもしろさが光る作品が選ばれました。日常生活の中でほんの少し見方を変えただけで、世界が途端に輝き始める。そうしたことを再認識させてくれた審査でした。気になったのは、定型句のようなタイトルや、後ろ向きの人物にレンズを向けた作品が少なくなかったこと。作品のコンセプトを伝える要素としてタイトルは非常に重要だと思います。又、人間と向かい合う手段として写真は有効な手立てだと思います。新たなぎふ美術展の今後のご進展を祈念いたします。

写真家

HASHI [橋村 奉臣]

Hashimura Yasuomi



清流の国ぎふ芸術祭、第1回ぎふ美術展「写真部門」の応募作品の審査をするにあたって公開審査方式を採用されましたことは、実に明らかな手法でした。1回目の開催となった今回、特にテーマを特定せず、自由な発想で応募して貰おうとの方針からテーマが多岐にわたっているところが特長でした。応募作品の中にも面白い作品も数多く、その作品の中から特に優れている作品をぎふ美術展賞、優秀賞、奨励賞に選出しました。何をすることも第一歩が大切です。「ぎふ美術展」の「写真部門」が、いずれ世界へ発信できる魅力的なイベントに発展していくことを願います。写真文化の先進国では、既に写真は現代アートとして認知されています。日本製カメラが世界中を席捲した様に、写真作品も日本は世界の牽引役になって写真文化大国ニッポン!を目指して欲しいです。これから、応募作品が日本国内だけでなく世界中から集められ、多くの方々が「ぎふ美術展」を覗に来てくださる様なイベントに発展していくことを願います。



美術家
名古屋市立大学名誉教授

山口 良臣
Yamaguchi Yoshiomi

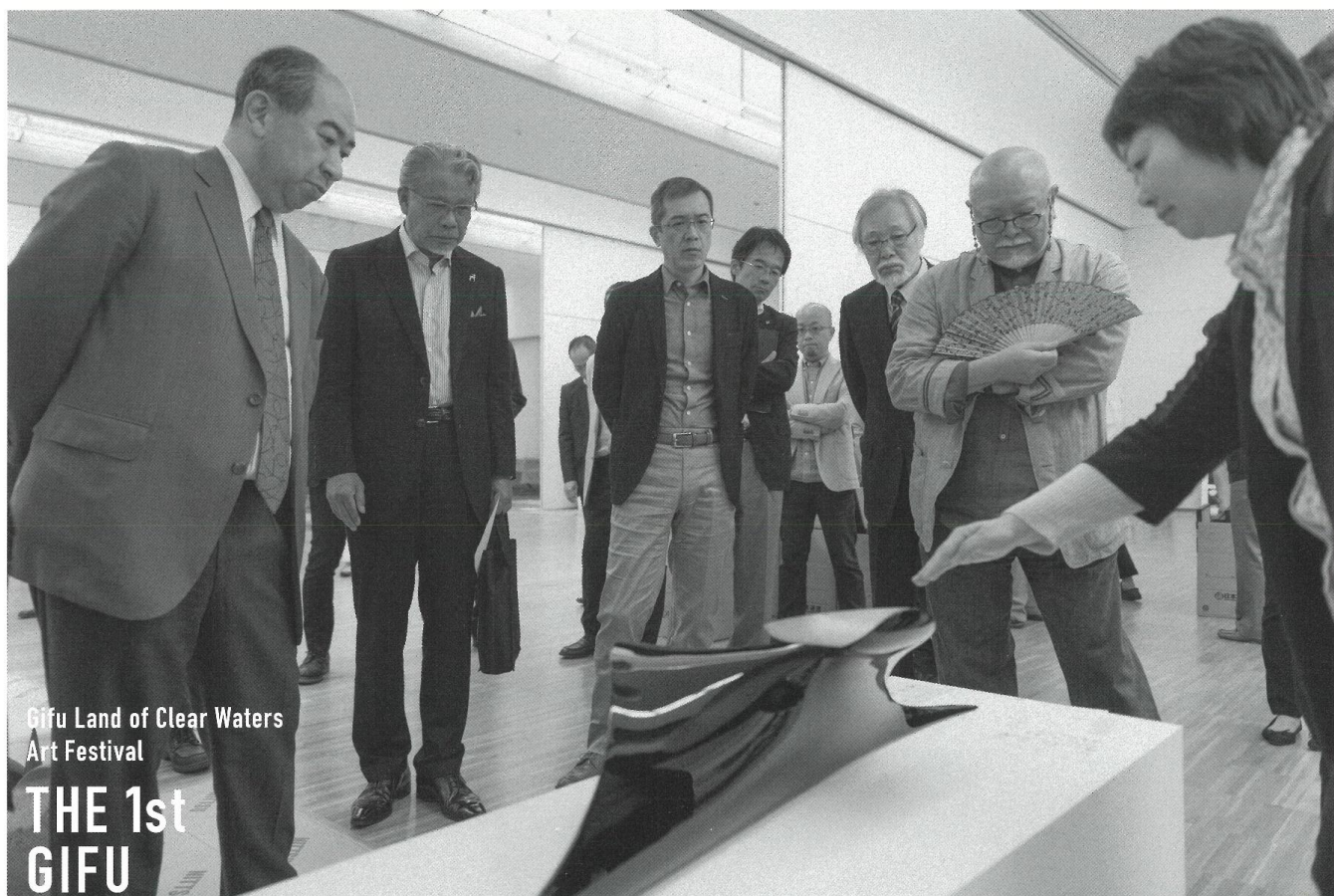
応募作品全体を見た時、突き抜けたものが見当たらないと感じてしまった。自由表現という枠組をどう捉えるかの問題ともいえるが、やはり絵画や書、工芸といった既存の枠組に収まったままに感じられるものが多く、そんな枠組を突き破って、これまで見たことも感じたこともないような、そんな表現には出会えなかった。そのような理由から、ぎふ美術展賞は該当なしとなってしまった。「ONE LINE ART・cube」は、一見するとありふれたグラフィック作品に見えるのだが、よく見ると画面全体が、ただ一本の線で構成されている。「ジョーの世界」は、枠組を感じさせない表現の集積となっている。両者ともに、次につながる可能性を十分に感じさせるものがあって、優秀賞とした。「ねこはいいなあ〜いつもねてばかり」は、そののびやかさに心惹かれるものがあって、奨励賞とした。



美術史家
明治学院大学教授

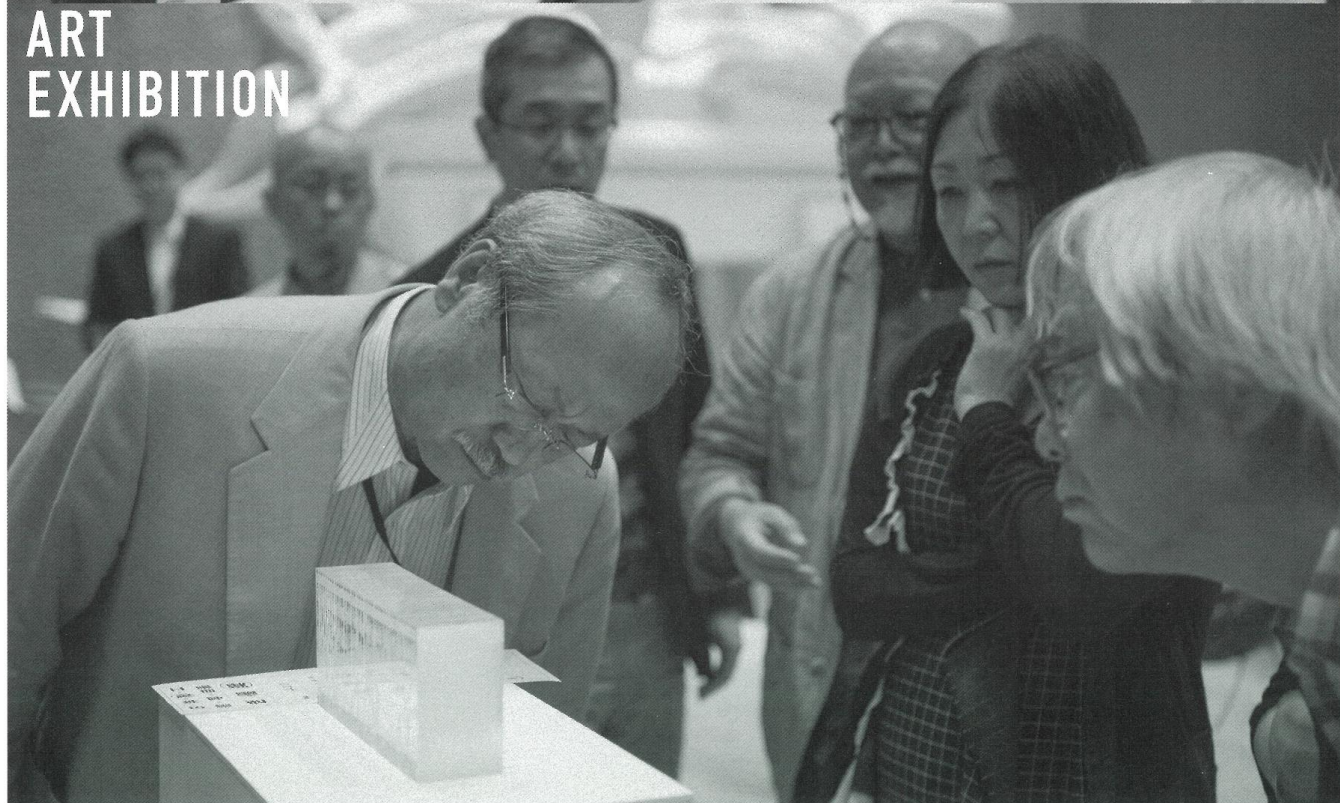
山下 裕二
Yamashita Yuji

今回、新たに設けられた「自由表現」部門の審査を担当させていただいた。「自由表現」というからには、旧来のカテゴリーに収まらない、突出した、エネルギーがほとばしるような表現を期待していたのだが、残念ながらそのような作品を数多く見出すことはできなかった。結果として、ぎふ美術展賞は該当なしとなったが、優秀賞2点、奨励賞2点を選出した。まず、優秀賞の「ジョーの世界」は、伸びやかな線描による大量のドローイングを効果的に展示するもので、もっともピュアな表現意欲を感じた。同じく優秀賞の「ONE LINE ART・cube」は、一見すると単なる抽象形態のようだが、熟視すれば驚異的な一筆描きであることがわかる。私の審査員奨励賞とした「木で作る蒸気機関車D51」は、きわめて高度な技術による木工作品で、その集中力を評価した。来年以降、よりスケールの大きい、旧来のカテゴリーを逸脱する作品が集まることを期待している。



Gifu Land of Clear Waters
Art Festival

THE 1st GIFU ART EXHIBITION



受賞作品

日本画

GIFU ART EXHIBITION PRIZE

ぎふ美術展賞

Title

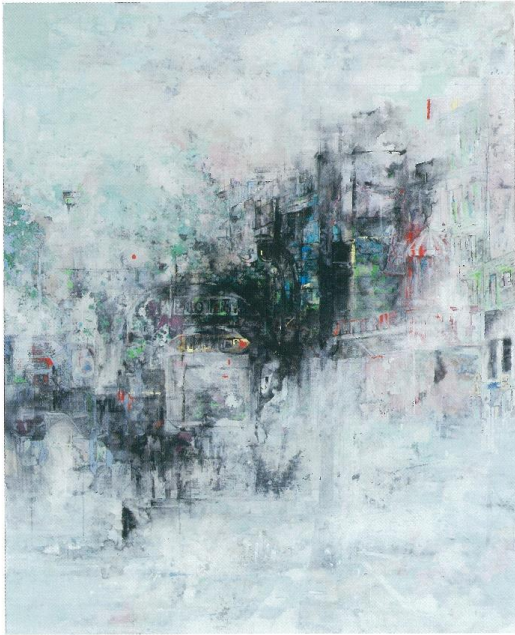
「いのちの子守唄」

Artist

木村 真光 (東京都)



| 優秀賞



「漂泊の白」
佐藤 正子(岐阜市)

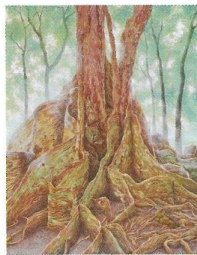


「鬼灯」
松澤 敬子(長野県)

| 奨励賞



「出立の鼓動〜岐阜〜」
今井 一雄(高山市)



「木漏れ日」
真野 由紀子(各務原市)



「ヒカリへ」
浅井 新太(下呂市)



「水平線のネオン」
奥村 美波(滋賀県)

受賞作品

洋画

GIFU ART EXHIBITION PRIZE

ぎふ美術展賞

Title

「naive」

Artist

市川 あずさ (岐阜市)



優秀賞

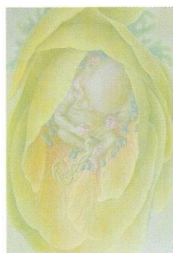


「記憶の形」
可知 則雄(中津川市)



「裸婦」
土岐 尚弘(揖斐川町)

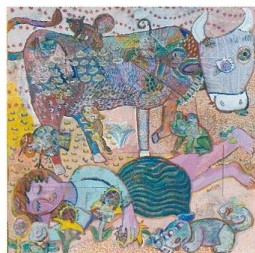
奨励賞



「蒼」
青木 千賀子(岐阜市)



「乾湿」
久古 春輝(岐阜市)



「夢の周り」
有賀 正季(瑞浪市)

受賞作品

彫刻

GIFU ART EXHIBITION PRIZE

ぎふ美術展賞

Title

「罌—WANA」

Artist

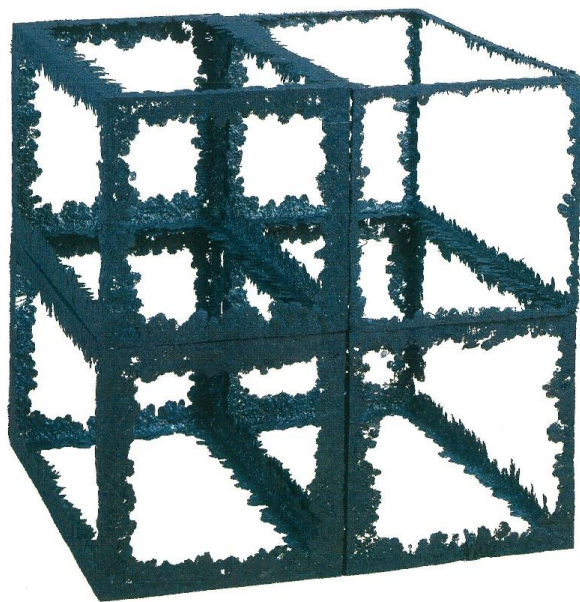
田中 厚好 (三重県)



優秀賞

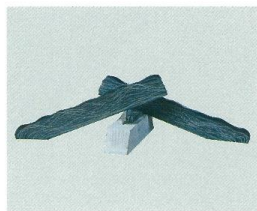


「TSUBAKURO」
青木 初彦(土岐市)

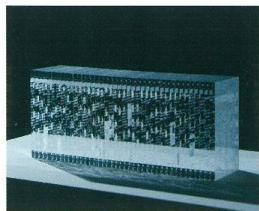


「衝突」
大竹 祐貴(各務原市)

奨励賞



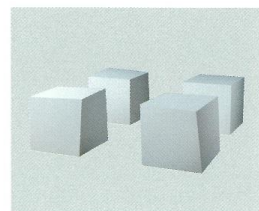
「浮游の創め」
清水 朋文(大垣市)



「window-“誰か”
2017.8.13.10:44-10:39」
平瀬 ミキ(大垣市)



「たばねる」
古田 長利(関市)



「四個の六面体」
宮崎 晋(美濃市)

受賞作品

GIFU ART EXHIBITION PRIZE

ぎふ美術展賞

工芸

Title

「遥かなる音色 穹の響」

Artist

入澤 あづさ (大阪府)



| 優秀賞



「竹林」
稲垣 美和子(恵那市)



「はじまりの器」
佐藤 千恵(愛知県)

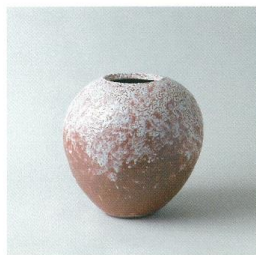
| 奨励賞



「練込青文器」
長谷川 幸孝(多治見市)



「古竜」
樋口 翔太郎(多治見市)



「志野大壺」
渡辺 耕三(土岐市)



「この一番」
那須 壽美(各務原市)

受賞作品

書

GIFU ART EXHIBITION PRIZE

ぎふ美術展賞

Title

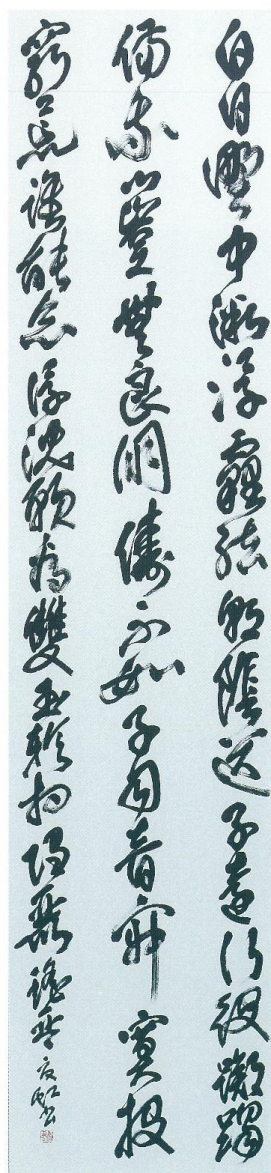
「除夜」

Artist

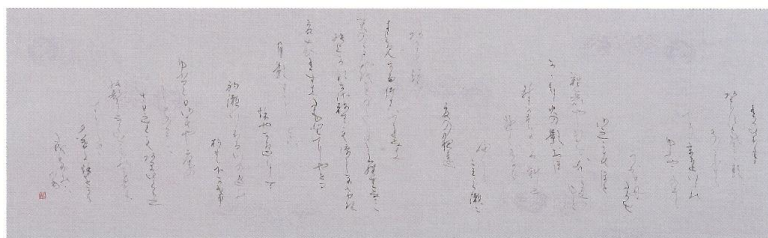
平田 竹庵 (本巣市)



優秀賞



「杭淮詩」
今井 夏虹(各務原市)

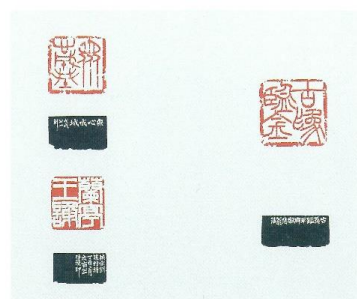


「新古今和歌集より八首」
古山 玉剛(御嵩町)

奨励賞



「桃源漁父行」
小酒井 彩花(岐阜市)



「近作三種」
波多野 公一(岐南町)

受賞作品

写真

GIFU ART EXHIBITION PRIZE

ぎふ美術展賞

Title

「五月晴れ」

Artist

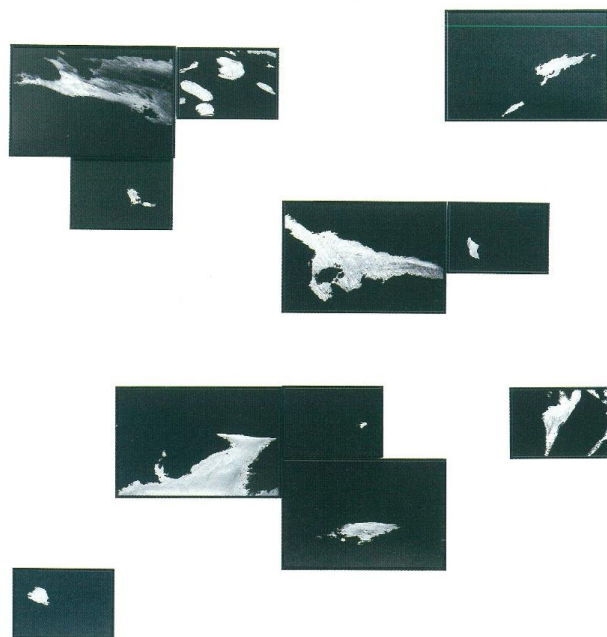
岩田 忠勝 (瑞穂市)



| 優秀賞

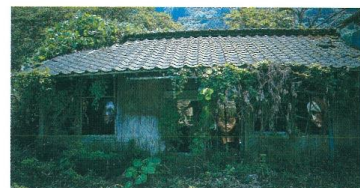


「連風乱舞」
高橋 尚武(大垣市)

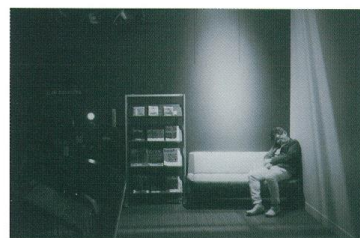


「THE NEW CONTINENT」
高崎 紗弥香(東京都)

| 奨励賞



「廃屋の住人」
前原 善彰(高山市)



「老人ネロ」
安田 涼(本巣市)



「秘密の花園」
三島 敏秀(垂井町)

受賞作品

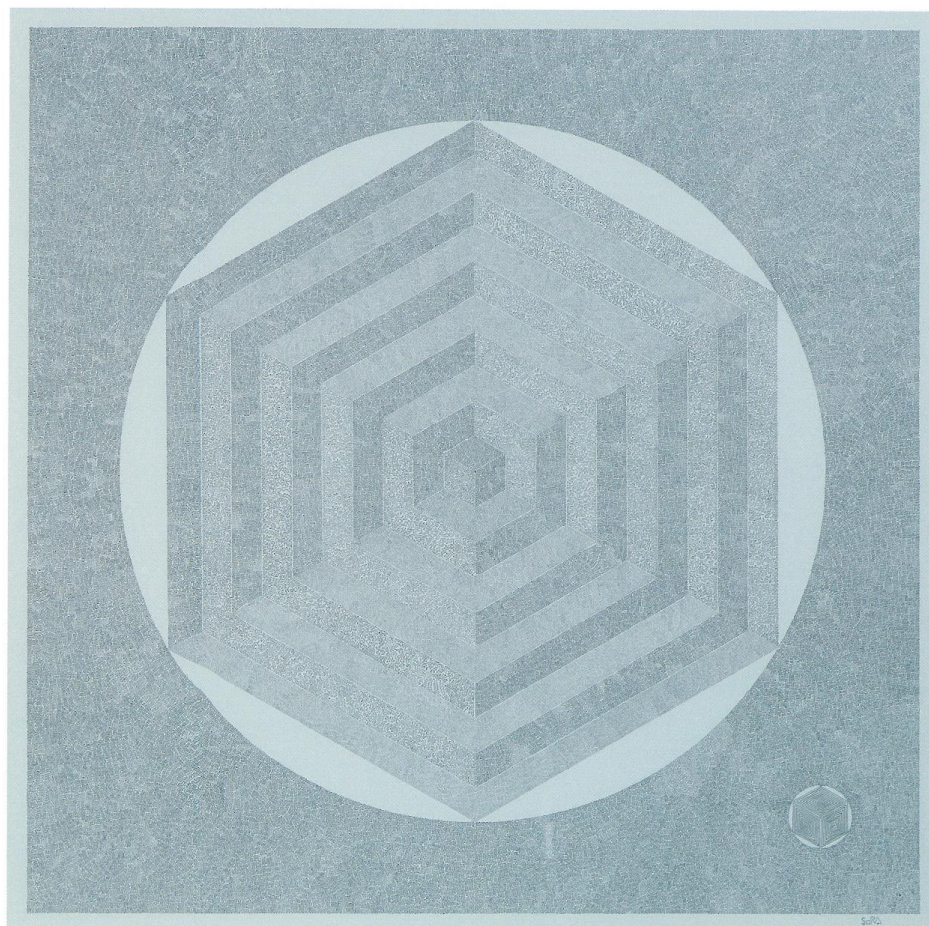
自由表現

優秀賞



「ジョーの世界」
荻下 丈(大垣市)

| 優秀賞



「ONE LINE ART・cube」
曾良 貞義(下呂市)

| 奨励賞



「木で作る蒸気機関車D51」
戸本 優(岐阜市)



「ねこはいいな〜いつもねてばかり」
大石 莉々子(静岡県)

出品目録

日本画

ぎふ美術展賞	いのちの子守唄	木村真光	東京都
優秀賞	漂泊の白	佐藤正子	岐阜市
優秀賞	鬼灯	松澤敬子	長野県
奨励賞	出立の鼓動～岐阜～	今井一雄	高山市
奨励賞	木漏れ日	真野由紀子	各務原市
奨励賞	ヒカリヘ	浅井新太	下呂市
奨励賞	水平線のネオン	奥村美波	滋賀県
入選	ある日・・	伊藤睦美	岐阜市
入選	時	日比野峯子	岐阜市
入選	颯	平光利重	岐阜市
入選	最上川の白糸	村瀬喜八	岐阜市
入選	湿原	横山剛	岐阜市
入選	空蟬	杉原秀氏	大垣市
入選	彩秋	都竹春代	高山市
入選	緑についての考察	宮原一美	高山市
入選	mari	所久美子	関市
入選	待ちあわせ	高木美智子	中津川市
入選	散歩道にて	近藤伸	恵那市
入選	森の番人	加藤紀代子	美濃加茂市
入選	惜夏	林美都子	美濃加茂市
入選	秋への想い	宮原剛	可児市
入選	ローズ	豊田つや子	瑞穂市
入選	川辺の野バラ	水野壽子	瑞穂市
入選	萩の寺	近藤政男	本巣市
入選	風薫	木村敦子	笠松町
入選	奏	杉野茂樹	養老町
入選	霧かかる黄葉	北村史子	垂井町
入選	月光の曲	誠道	垂井町
入選	さくら樹	古川幸代	垂井町
入選	扉の向こうに・・・	佐々木将規	大野町
入選	厳耐	近藤涼	北方町
入選	愛惜	佐野智恵子	北方町
入選	瞬輝	若原義春	北方町
入選	The other side	戸田伸英	石川県
入選	おだやかな刻	栗田孝子	愛知県
入選	岐阜百景	高木俊一	愛知県
入選	赤い鳥が鳴く頃に	赤司真里菜	福岡県

洋画

ぎふ美術展賞	naive	市川あずさ	岐阜市
優秀賞	記憶の形	可知則雄	中津川市

優秀賞	裸婦	土岐尚弘	揖斐川町
奨励賞	蒼	青木千賀子	岐阜市
奨励賞	乾湿	久古春輝	岐阜市
奨励賞	夢の周り	有賀正季	瑞浪市
入選	刻 (life)	伊藤初江	岐阜市
入選	界	大島満男	岐阜市
入選	ゆく春のレクイエム	小瀬園子	岐阜市
入選	葉の雨	大西達也	岐阜市
入選	莫逆の樹	小野田忠仁	岐阜市
入選	巡礼の径	小森啓子	岐阜市
入選	海流	佐藤明生	岐阜市
入選	NO.4	二郎	岐阜市
入選	或る情景	杉浦佑治	岐阜市
入選	祈	鷺見綱一	岐阜市
入選	しらぬい	高橋玲子	岐阜市
入選	ゆくえのしるべ	竹内裕紀	岐阜市
入選	歓喜	竹内美代子	岐阜市
入選	深山 一秋一	坪田立江	岐阜市
入選	roots	林直樹	岐阜市
入選	Appassionato	水口千恵子	岐阜市
入選	あじさいの終わる頃	村瀬久美子	岐阜市
入選	うつろい	森岡啓子	岐阜市
入選	辻さん宅のバラ園	安田龍生	岐阜市
入選	鉄「情」網	吉田尚都	岐阜市
入選	庚申と千面菩薩	石見節雄	大垣市
入選	マーメイド	荻下丈	大垣市
入選	象菩薩	小倉宗	大垣市
入選	ある風景	久世久子	大垣市
入選	山門	子安信夫	大垣市
入選	いつもいっしょに	篠田美保	大垣市
入選	勇氣	説田麗子	大垣市
入選	アンデルセン公園	高田鈴代	大垣市
入選	つち・とり	高橋栄子	大垣市
入選	時間	樋口廣久	大垣市
入選	蝶の舞 (ギフチョウ)	藤野兵	大垣市
入選	古民家～山之村にて～	小井戸洗二	高山市
入選	春うらら	Yuko	高山市
入選	滝	有賀宣美	多治見市
入選	多種多彩	北野汰一	多治見市
入選	Enclosure	樋口一成	多治見市
入選	或る景-II	深井保正	関市
入選	惑星の朝	八木ゆきよし	関市

入選	孤	山崎信子	関市
入選	無題	吉田謙一	関市
入選	蒼流廻る	安部成信	中津川市
入選	彩・雲・月	天野るみ子	中津川市
入選	青の形象	牛越諒	中津川市
入選	希求	斉藤みえ子	中津川市
入選	深海	坂巻天雅	中津川市
入選	儚さ	佐藤夏歩	中津川市
入選	鉄の街	鈴木昌義	中津川市
入選	ネーデルラント最後の夢	西尾香純	中津川市
入選	疲れた夕方	森本菜々	中津川市
入選	わたしは、ここに、おります。	市原奨太郎	美濃市
入選	バンドーラの娘	小木曾由雄	瑞浪市
入選	生きとし生ける日に感謝	大塚たか子	羽島市
入選	六月のうた	西志計利	羽島市
入選	時代の変化	千藤衣月	恵那市
入選	まどろむ	長谷川典子	恵那市
入選	彷徨い	渡辺さゆり	美濃加茂市
入選	緑の丸椅子	阿部芳久	各務原市
入選	自我像	大嶽涼太	各務原市
入選	Dream World	奥田祐子	各務原市
入選	キリン	葛西加津博	各務原市
入選	人生ゲーム	黒川麻理子	各務原市
入選	蔵の明り窓	酒井勝正	各務原市
入選	青写真構築	島谷三千男	各務原市
入選	memory	戸部善晴	各務原市
入選	自我の領域	福島典子	各務原市
入選	レウシリで	松村ふさ子	各務原市
入選	窓への静物	森泉	各務原市
入選	ジラソーレ	森千紗登	各務原市
入選	虚栄	タオ ビー ジョン	可児市
入選	たんぼぼ	加納雅弘	瑞穂市
入選	滋愛	高橋照子	瑞穂市
入選	南の島	大平進	本巣市
入選	生まれる	高田静香	本巣市
入選	深紅の大樹	古田清光	本巣市
入選	フィヨルドに立つ	古田竜万	下呂市
入選	陽光に映える化成工場	田中泰彦	海津市
入選	飛翔	大塚房子	笠松町
入選	沖縄玉泉洞30万年の時を経て (美しい鍾乳洞から平和)	真田雅江	笠松町
入選	姉	箕浦希生	笠松町
入選	王製造中	伊藤綾香	養老町
入選	水響	河村隆子	養老町
入選	黄昏時	中島邦彦	養老町
入選	伊吹の朝	片岡重保	垂井町
入選	「さくら湯」(景観遺産)	鹿野富子	神戸町
入選	時間と共に	上田貢也	揖斐川町
入選	絡み合う人生に花	若原徹	揖斐川町

入選	孫の来る日	加藤伸治	大野町
入選	ネコの夢	林素美	北方町
入選	FULL DA	ふるたけんじ	八百津町
入選	鼓動	三輪和雅	御嵩町
入選	14:23	伊藤優花	石川県
入選	心の淵	大口曾介	愛知県
入選	バルセロナの夜	小笠原盛久	愛知県
入選	桜祭り	織部浩道	愛知県
入選	第3楽章ト長調作品 60	鈴木孝治	愛知県
入選	路面電車のあった街	永井靖子	愛知県
入選	ざわめき	成瀬未佳	愛知県
入選	この子の願いは。	松田玲子	愛知県
入選	思郷	西田昇三	三重県
入選	untitled (〔Select and enclosed〕より)	深川未貴	京都府

彫 刻

ぎふ美術展賞	麗—WANA	田中厚好	三重県
優秀賞	TSUBAKURO	青木初彦	土岐市
優秀賞	衝突	大竹祐貴	各務原市
奨励賞	浮游の創め	清水朋文	大垣市
奨励賞	window—“誰か” 2017.8.13.10:44-10:39	平瀬ミキ	大垣市
奨励賞	たばねる	古田長利	関市
奨励賞	四個の六面体	宮崎 晋	美濃市
入選	一時の軌道	安藤 治	岐阜市
入選	生命の証	樋口勝彦	岐阜市
入選	壁	早崎重男	大垣市
入選	朱の胎動	福井清治	大垣市
入選	赤いリボン	原田直政	多治見市
入選	嶽	野口直人	美濃加茂市
入選	満月の夜	菅原光則	山県市
入選	PARASITE	古田直文	山県市
入選	追憶	矢野純一	関ヶ原町
入選	origin (生命のあるものの形)	岩田春菜	石川県
入選	郷を泳ぐ	浅野朱音	愛知県

工 芸

ぎふ美術展賞	遥かなる音色	穹の響	入澤あづさ	大阪府
優秀賞	竹林		稲垣美和子	恵那市
優秀賞	はじまりの器		佐藤千恵	愛知県
奨励賞	練込青文器		長谷川幸孝	多治見市
奨励賞	古竜		樋口翔太郎	多治見市
奨励賞	志野大壺		渡辺耕三	土岐市
奨励賞	この一番		那須壽美	各務原市
入選	カメレオン		荒井恵子	岐阜市
入選	輪わランド		石田妙子	岐阜市
入選	阿吽		大野裕之	岐阜市
入選	金の水指		奥村智彦	岐阜市

入選	春の喜び	川瀬正二	岐阜市
入選	練り上げ紫陽花花紋皿	額嶺勇	岐阜市
入選	sweet corn	小酒井多会子	岐阜市
入選	ダブルペーパーランタン	林謙一郎	岐阜市
入選	にらみ	加藤敏一	大垣市
入選	天河	古川智恵子	高山市
入選	波風	石川健一	多治見市
入選	organism	木寺希世紀	多治見市
入選	蘇生	熊倉龍一	多治見市
入選	ねっとわーく	矢島与萌	多治見市
入選	Mechanical Clay	山田温日	多治見市
入選	半分、白い。志野清流大皿	若尾修平	多治見市
入選	編込八角行灯	川上実	関市
入選	栗我谷彫重器	木戸口幸人	関市
入選	織部花器	後藤宮次	関市
入選	超三次元椅子	鷺見智次	関市
入選	織部鉢	河合真殿	美濃市
入選	蝶螺鈿花蒔絵香合	古田 一	美濃市
入選	鉄釉窯変	水野東三	瑞浪市
入選	オリエンタルポビー	入山千穂子	羽島市
入選	大地一刻一	酒向武一	美濃加茂市
入選	My Celtic Soul	Eltte	土岐市
入選	彩紋器	二十歩文雄	土岐市
入選	此岸の辺	木村洋子	各務原市
入選	長良川鉄道	古田桂子	可児市
入選	憤怒(伐折羅大将)	打田紀久雄	山県市
入選	梅の華	石原重好	瑞穂市
入選	月見台。甦る栄華	坪内佐代子	本巣市
入選	美濃絹 着物 清流長良川「川音」	森有季野	笠松町
入選	型絵染色紙屏風「晩秋」	山根よ志枝	八百津町
入選	おかえり	笹谷益祥	御嵩町
入選	縫器 烈波	佐藤典克	神奈川県
入選	心月輪	翠野見星	愛知県
入選	夕暮れにやさしく染まる	戸田千晶	愛知県
入選	わた絵～天然わたで命を描く～	堀田きよみ	愛知県
入選	息を待つ	望月美鶴	愛知県

書

ぎふ美術展賞	除夜	平田竹庵	本巣市
優秀賞	杭淮詩	今井夏紅	各務原市
優秀賞	新古今和歌集より八首	古山玉扇	御嵩町
奨励賞	桃源漁父行	小酒井彩花	岐阜市
奨励賞	近作三種	波多野公一	岐南町
入選	臨曇宝子碑	池邊美杜	岐阜市
入選	吉田一穂の詩「天隕」	石川夏舟	岐阜市
入選	司空図詩	大橋由季	岐阜市
入選	実朝の歌	清水青蘭	岐阜市
入選	濃巖	寺部康穂	岐阜市

入選	西句橋	戸本舟泉	岐阜市
入選	臨李柏尺牘	橋本恵	岐阜市
入選	翁方綱詩	古田霄葩	岐阜市
入選	黃庭堅草書諸上座帖	細江静里奈	岐阜市
入選	悠遠	松本未央	岐阜市
入選	高青印詩	安田茉莉	岐阜市
入選	五言絶句三首	吉田祥山	岐阜市
入選	釣臺	大石窓雪	大垣市
入選	厲鶚詩	大野茂登枝	大垣市
入選	富士の山	山下水巖	大垣市
入選	時雍道泰	中野秋石	高山市
入選	夏日閑居	可知凜花	中津川市
入選	合掌	毛利朱藤	羽島市
入選	ほととぎす	梶田女理	美濃加茂市
入選	陳璉・陳輔詩	今井大地	各務原市
入選	秦道然詩	北澤素心	各務原市
入選	洪自誠	酒井貴梅	各務原市
入選	許璣詩	高橋芳翠	各務原市
入選	李商隠詩	中村眸	各務原市
入選	蘇直詩	前川緋邑	各務原市
入選	秋風のややはだ寒く…	浅野螢雪	可児市
入選	山家集	石井照葉	可児市
入選	新古今和歌集	中嶋貴舟	可児市
入選	新古今和歌集	古山友子	可児市
入選	山家集夏歌	渡辺桂山	可児市
入選	幽蘭	長野綾音	山県市
入選	送友人	鈴木瑤樹	瑞穂市
入選	心	大野愛玉	本巣市
入選	磨而不磷	小池清子	本巣市
入選	與徐伯廉再往南陵	山本祥仙	本巣市
入選	中原鈴代の句	中島千寿	海津市
入選	家兄信宿焦山有寄	小西美紀	岐南町
入選	姚汝僊詩	長屋純子	笠松町
入選	漢詩句	高井敦史	垂井町
入選	嶺南道中	大野雅鳳	北方町
入選	五言律詩	山田柏陽	北方町
入選	二葉の松	成瀬孝子	富加町
入選	新古今和歌集より	安藤香波	御嵩町
入選	花	鈴木雄大	静岡県
入選	誕生	増田愛	静岡県
入選	志は大きく高く	向井駿	静岡県
入選	絆	井上邦江	愛知県
入選	臨木簡	永川皐鶴	愛知県
入選	池	南風盛桜佳	沖縄県

写真

ぎふ美術展賞	五月晴れ	岩田忠勝	瑞穂市
優秀賞	連鳳乱舞	高橋尚武	大垣市

優秀賞	THE NEW CONTINENT	高崎紗弥香	東京都
奨励賞	廃屋の住人	前原善彰	高山市
奨励賞	老人ネロ	安田涼	本巢市
奨励賞	秘密の花園	三島敏秀	垂井町
入選	MY SQUARE IMAGE	藍川慧順	岐阜市
入選	あれ、なんだろう…	小川典洋	岐阜市
入選	パール富士を映す山中湖に佇む	子林優	岐阜市
入選	臆朧な刻	田中清文	岐阜市
入選	美化運動 川の清掃	所聖典	岐阜市
入選	寒い朝の路地裏	長野勝	岐阜市
入選	りかい02	中村直永	岐阜市
入選	溪流の輝き	本間かよ	岐阜市
入選	雨の日なれど	大久保金行	大垣市
入選	ふるさととは・今・	加納益雄	大垣市
入選	影絵	高木俊満	大垣市
入選	祭りの子	豊田裕達	大垣市
入選	郷土芸能の継承	西垣裕行	大垣市
入選	五月の風	林孝弘	大垣市
入選	天使のはしご誘う	吉田英昭	大垣市
入選	晩秋の朝	岩茸伸一	高山市
入選	LOVE	小澤力	高山市
入選	青の世界	北村顕	高山市
入選	ひと休みしよう	都竹勝子	高山市
入選	清流	直井文子	高山市
入選	シャボン玉にママが	山ノ内晃	高山市
入選	一寸、疲れた。(鬼面の下の素顔)	代情岑郎	高山市
入選	鶏舞	浅野健	多治見市
入選	WANTED	田原晴行	関市
入選	ハプニング	中辻和子	関市
入選	潮騒	廣田昭男	関市
入選	暗雲	松ヶ崎桂吾	関市
入選	下校	山田朱璃	関市
入選	旧家	大塚高明	美濃市
入選	清流に生きる	駒瀬武子	羽島市
入選	真夏の昼下がり	ハットリヤスミツ	羽島市
入選	闘祭	川島昭良	各務原市
入選	無風快晴	久次米譲	各務原市
入選	喝采	下村匡史	各務原市
入選	仮想回廊	鈴村龍祐	可児市
入選	季節が変わり	高橋良宜	可児市
入選	水面の変	山田喜藏	可児市
入選	放課後	横地結衣	可児市
入選	雲上の穂高	吉田昌樹	山県市
入選	二人の世界	林道子	瑞穂市
入選	高崖みち	尾内治良	飛騨市
入選	マーガレット満開(乗鞍岳遠望)	重山照夫	飛騨市
入選	秋色の池	山田育夫	飛騨市
入選	ぎふ柿っ子	高橋啓次	本巢市
入選	天空の茶畑	日置英司	郡上市

入選	城下町・岩村	福谷昌己	下呂市
入選	卒寿の稜	江上瑠美子	垂井町
入選	真桑人形沢市	久保田紘義	垂井町
入選	光射す	小竹隆	垂井町
入選	夏まつり	小竹久子	垂井町
入選	田舎の老婆	吉田孝	垂井町
入選	伝承を担う	神戸孝司	輪之内町
入選	新緑に懐かれて	竹内嘉彦	安八町
入選	光輝を飛ぶ	谷泰宏	大野町
入選	光と影	牧村正樹	大野町
入選	Selfie Fantasy	近藤銀河	東京都
入選	人馬一体	内田昌臣	愛知県
入選	祖父の眼	長谷部勇人	愛知県

自由表現

優秀賞	ジョーの世界	荻下文	大垣市
優秀賞	ONE LINE ART・cube	曾良貞義	下呂市
奨励賞	木で作る蒸気機関車 D51	戸本優	岐阜市
奨励賞	ねこはいいなあ〜いつもねてばかり	大石莉々子	静岡県
入選	ようせいのとおりみち	Gotow,	岐阜市
入選	らせん	オシミタダシ	岐阜市
入選	兆白	加藤文	岐阜市
入選	RUSTED IRON CHAMELEON	野林賢太郎	岐阜市
入選	ゼロの視卓	広沢佑司	岐阜市
入選	Your World	堀朱里	岐阜市
入選	私のアルチンボルド(秋)	松野公美	岐阜市
入選	I LIKE,I LOVE,I WANT,I WAS, I WILL,I THINK,I KNOW,	馬淵英樹	岐阜市
入選	歌詩集	村瀬英之	岐阜市
入選	りつこワールド	渡邊梨津子	岐阜市
入選	GIFU Warli	磯竹由美	大垣市
入選	威嚇の為の眼鏡	影郎と眼鏡職人達	大垣市
入選	translucent object	平瀬ミキ	大垣市
入選	夢で逢いましょう	蒔苗友紀	大垣市
入選	川原	倭明子	高山市
入選	生まれ落ちたものたちへ	原田直政	多治見市
入選	都市災害	吉岡浩徳	各務原市
入選	愛してるよこれからずっと	ありえだなお	可児市
入選	エクセル・アート	中村龍美	山県市
入選	監視社会	青山裕史	本巢市
入選	戦艦武蔵	安田優輝	安八町
入選	±0	鈴木崇弘	石川県
入選	れんげ	池田明奈	静岡県
入選	いぬやまとぼく	坂井祐斗	静岡県
入選	in the sphere / cube	奥村和則	愛知県
入選	To the moon	藤原葵	愛知県
入選	花とぼく	花畑貴士	宮崎県

関連プログラム

「清流の国ぎふ芸術祭」の概要

戦後間もない昭和21年から平成27年に至るまで69回の歴史を刻んだ「岐阜県美術展」は、時代の変遷や表現の多様化に対応した見直しによって、新たに「清流の国ぎふ芸術祭」として生まれ変わりました。

その1つめの柱は、2017年、想像力溢れる新たな才能の発掘と育成を目的に開催された、革新的な企画公募展「Art Award IN THE CUBE」。

2つめは、より広く県民に作品発表の機会を提供する公募展「ぎふ美術展」。

そして3つめの柱となるのが、年間を通じ、県内各地で様々なスタイルのプログラムを展開し、アートに親しむ場(ラボ)を提供するアート体験プログラム「アートラボぎふ」です。

清流の国ぎふ芸術祭

(H29.H32…)

Art Award IN THE CUBE

全国規模の公募展

- ・新たな才能の発掘と育成
- ・アートに関わる人材の育成とネットワークづくり
- ・県民に新たな形のアートの鑑賞機会を提供
- ・3年に1回開催

(H30.H31…)

ぎふ美術展

県民に広く開かれた美術公募展

- ・美術に親しむ県民の裾野を拡大
- ・県民の創造力、鑑賞力の向上に寄与
- ・創作活動に励む全ての県民に発表の機会を提供
- ・3年に2回開催

(H30～毎年実施)

アート体験プログラム —アートラボぎふ—

幅広い県民が参加できる美術講座、ワークショップ等を全圏域で展開

- ・美術に対する関心を高めるきっかけづくり
- ・美術に関する視野を広げ、知識、技術を向上させる機会を提供
- ・毎年実施

清流の国ぎふ芸術祭 アート体験プログラム

アートラボぎふ

「アートラボぎふ」を通じて、“アート”は決して堅苦しく敷居の高いものではなく、人それぞれが感じたことを楽しくのびのび表現することで、人それぞれの価値観、多様性をお互いが理解し合うことにつながるような、そんなきっかけになればと願っています。

この「アートラボぎふ」のキックオフイベントとして、「第1回ぎふ美術展」期間中に、様々なプログラムを開催しました。



クロストーク 「山下裕二×日比野克彦」

テーマ
「日本の現代美術の現状」

日 時 6月9日(土) / 14:00~15:30
場 所 岐阜県美術館講堂
参加者 127人

20年来の旧知の仲である山下氏と日比野氏は共に今年還暦を迎える同い年。軽妙なトークから始まった会場は笑いに包まれた。

冒頭、各都道府県で開催されている県展の話に及ぶと、多くの県展で審査員を務めている山下氏は、「これまで経験した中で一番大がかりでありシステマティックな県展」と第1回ぎふ美術館展を評価。続いて自由表現部門にとどまらず他部門の入賞作品や山下氏が気になった入選作品38点をスライドで紹介し、それぞれに解説を加えた。山下氏は、「自由表現部門ではスケール感のある作品がなかった」と指摘。全国でも「自由表現」という概念規定があるのは他には見られない。もっと積極的に既成のジャンルを超えようという意欲のある作品が来年で以降応募されることに期待を寄せた。美術全般に造詣の深い二人は、作品の評価から発展し、アール・ブリュット、熊谷守一、書、猫の絵などの話にも及んだ。

続いて、岐阜県美術館所蔵作品を紹介しながら、戦後の現代美術談義となる。元永定正、荒川修作、中西夏之らの作品から「具体」、「もの派」、「ハイレッド・センター」の話に及び、山下氏は、「60年代は美術が過激な方に極点まで達して、それが70年代から少し沈静化し、やたらコンセプチュアルなものが登場し、80年代になるとまた別の動向が出てきた」と分析。日比野氏は、「戦後の抑圧から一気ににはじけたのが80年代で、多様性の一番の元になるキッカケが80年代にはあった」と評価。二人ともに「60~70年代の再評価は確実に進んだが、80年代の検証はこれから進むだろう」と言及した。

次に日比野氏から、「ナンヤローネ」、「ナンヤローネSHOP」、「アートまるケツ」など最近の岐阜県美術館の試みをスライドとともに紹介。日比野氏が岐阜県美術館の館長となって4年目。子どもも含めて誰もが気軽に立ち寄ることのできる美術館を目指して取り組んでいる。



クロストーク 「新井光風×笠嶋忠幸」

テーマ
「現代書の創意・工夫」

日 時 6月10日(日) / 10:30~12:00
場 所 岐阜県美術館講堂
参加者 85人

親子ほど年の差がある二人のクロストークは、笠嶋氏の進行で進められた。

まず、笠嶋氏からテーマにある「現代書」というキーワードについて、1949年「書品」で発表された西川寧の3分類が紹介され、新井氏に見解を問うた。昔には書かれなかったような、古典の匂いが少ない書で今日の感性が表にたくさん出ているものを「現代書」とする考え方や、今生きている、今呼吸している私達が筆を持って書いたら、それは現代そのものであり、古典に立脚して制作しても当然「現代書」とする考え方もあり、難しい問題であることを示唆。

次に、笠嶋氏から作品を構成する線と、白と黒の攻めぎあいである空間について、いくつかのサンプル作品をスライドで紹介された。青山杉雨の作品を見た新井氏は、「均一的な線で構成される中国の書体「金文」を基本にしながらも、生きている証としての線に置き換えられて作者の体の中から湧き出てきた形、つまり作者そのものの姿が作品となって表れている」と評価。「書」で一番大事なものは、その人の持っている一番大事なものが作品に表れているかどうかである」と強調。新井氏自身も、線の引き方やその質感については、常に自分の足元を見つめ直して考えており、「線の命と存在感」が作品の大きな力となるとして線の重要性を熱を込めて訴えた。そして、その次に発生する空間についても、宇宙的な深さを感じて見えなほどの奥深さを感じるものもあるとして空間の凄さも強調。そこで、観賞する側にも線と空間を楽しむことを勧めた。

続いて、書部門の入賞作品をスライドで紹介しつつ、歴代の書家たちが尊重してきた古典作品の解説を加えた。ぎふ美術展賞を受賞した「除夜」については、古典の要所を踏まえた上で、その枠のギリギリのところで思い切って書かれた作品と評価。笠嶋氏は、「自在だなと思いつつも、そこにふっと古典の匂いが香ってくる、このバランスが審査のポイント」と告げた。

新井氏は、蘇軾(蘇東坡)の「神・氣・骨・肉・血、その一つでも欠けたら書とならない」とする人間に例えた書論に影響を受け、「線の命と存在感」という境地に至った。そして、「新しい扉を開いて表現することは、人間の深呼吸で言えば吐き出すこと。自分の中のものを精一杯吐き出すことが表現となる。吐き出すためには吸い込むことが必要。徹底的に古典から学び、そして美術館等で多くの作品に触れ、吸い込むだけ吸い込んで、美に対する意識を高め、今以上に新しいものが表現できるよう努力してほしい」と提言。80歳を超える新井氏は、今なお昔学んだ古典を勉強し直し、若い頃には見えていなかったものを貪欲に吸収しようとしている。



「作品講評会」

講師

立島恵(日本画)、小笠原宣(洋画)、小清水漸(彫刻)
笠嶋忠幸(書)、山口良臣(自由表現)

日時 6月10日(日)／14:00～15:30

場所 岐阜県美術館展覧会場

参加者 160人

各部門の審査員5名を講師に迎え、企画展示室と県民ギャラリーの2グループに分かれて開催。

日本画の立島氏は受賞作品を中心に講評し、「空間の処理の仕方、岩絵の具の使い方が表現に大きく影響する」とコメント。日本画と彫刻が交じって展示されている会場構成について、「非常に良い。平面と立体を対比し、その良さをそれぞれ楽しめる」と評価。

洋画の小笠原氏は、多くの制作者にマイクを向け制作意図を聞き出し、その後に評価を加えるという手法をとった。もう一人の審査員である絹谷氏とともに、なぞったような絵や上手な絵は選ばず、力があってオリジナリティのある絵を入賞作品としたことを告げた。

彫刻の小清水氏は、各作品の材料や技法について丁寧に解説。彫刻は身の回りのあらゆる物が材料となるため表現の仕方に多様性があるが故に、自分の世界を確認して面と向かって対峙する材料を選ぶことの重要性を説く。

一方、県民ギャラリーでは自由表現の山口氏と書の笠嶋氏が主な作品について講評を行った。

山口氏は、「空間的に広げることで場そのものが特別なものになりその世界に取り込まれる。空間的なものというのは、大きくなくても小さくても箱庭的なものでも、見る人がその世界で遊べるようなもの。そうすると別のおもしろさ、楽しさといったものが見えてくる」とし、今回の作品全般に空間的な作品があまりなかったことを惜しんだ。

笠嶋氏は、美術館の学芸課長という立場から、「書」に関する幅広い見識を交えながら、漢字、かな、篆刻、調和体それぞれの作品について、筆のタッチ、筆の運び、筆先の機能と線質の関係性、墨の濃淡、紙の質感など細部にわたり技術的な点にも触れて解説した。そして、審査のポイントとして、保守的な作品は避け、ある程度チャレンジしようとしているもの、自由な姿勢が見受けられる作品を評価したこと、もう一つは書き込んでいるかどうか、筆の跡を追いつつながら、実験的・挑戦的なところも含めて見ていることを告げた。

終了後も、会場では自分の作品の評価を聞こうと多くの人が講師の周りを取り囲んでいた。



書道パフォーマンス

「横山豊蘭」

テーマ

「書の身体」

日時 6月16日(土)／11:00～12:00

場所 岐阜県美術館多目的ホール

参加者 170人



テレビ東京「たけしの誰でもピカソ」にゲスト出演し、パフォーマンスを披露したことで、近年の書道パフォーマンスブームの先駆けとなった横山氏。「書の身体」というタイトルは、書の向こう側には必ず身体、つまり人がいるのであって、書いた人の人生とかその時の心の動きが含まれており、書と身体は一体のものであるという考えから生まれた。日本では古来より手紙や和歌などが原点となって書による交流が生まれており、書というものは人と人の間にあって人をつなげるものという信念を抱いて活動が続けている。

今回のパフォーマンスは、非常に大がかりなもので、高8m×幅24mのオーガンジースクリーンを多目的ホールの壁面2面にワイヤーを取り付けて吊り下げ、そこに滝の映像を映しながらパフォーマンスを行うもの。今回のテーマである「書と身体」のために特別に改良して作られた最新作品でもあるオリジナル筆も、初のお披露目となった。

前日の夕方から始まった会場設営は電動リフトを駆使して深夜にまで及んだ。

当日は、早くから横山氏のパフォーマンスを一目見ようと多くの観客で会場が埋め尽くされた。

神秘的な音楽と滝の映像をバックに始まったパフォーマンスは、まるで神が乗り移ったかのように自在に筆を操り、4m×6mの2枚の布にまずは黒墨で「清流」、その後には朱墨で「書画会」と大書され、滝の映像を投影していたスクリーンの上から吊り下げて展示された。

終了後、遠巻きに見ていた観客は、会場内に入り間近でパフォーマンスの書を見学するとともに、横山氏との書道談義や写真撮影に興じていた。





クロストーク

「西田俊英×長谷川喜久」

テーマ

「ナニを描くのか ナゼ描くのか」

日時 6月16日(土) / 14:00~15:30

場所 岐阜県美術館講堂

参加者 126人



冒頭、西田氏は院展で審査している経験から「良い絵は画面からすーっと語りかけてくる何かがある。多くを語らず、1語2語で。生命が絵から出ているかどうか。共感するものを選んで」と審査のポイントを披露。

長谷川氏が用意した本日のテーマは「ナニを描くのか ナゼ描くのか」。西田氏は思わず「難しいテーマだ」と唸る。来場者にその意味を分かってもらおうと、「第1回さふ美術展」日本画部門入賞作品や長谷川氏、西田氏それぞれの若い頃から現在に至るまでの作品が紹介された。

最初に、日本画部門入賞作品7点と惜しくも入賞を逃したが候補となった作品4点をスライドで紹介。さふ美術展賞受賞作品については、「作者が描かなければならないことが内側から訴えるもの、語りかけてくるもの、内面的な強さを感じた」と評価。別の作品については、「作品自体がすべての答えを語っていない。この先にあるドラマの全体像が、作品以上にぐっと膨らむような感覚を与えてくれた作品」と評価。

次に、長谷川氏が自身の作品を紹介。「若い頃は、期待と不安が入り交じり、自分の意味が混沌として手探りの状況の中で、自分の内面に足りないもの、一方で余るものを作品にしようと思い描いていた」と告げた。西田氏は「苦しみながら絵を続けてきて新しい方向に向かっている。心の変転が画面の中に出ている。自分というものを見つめてきた結果としての絵ができて」とエールを送った。長谷川氏は、「人を描かなくても何かそこに人がいるというのが描けるようになったらいいなというのが今の理想」と心境を吐露した。

続いて、西田氏が作品を紹介。インドでガンジス河畔での葬送を見て描いた絵は、まるで神が降りたように自分に何かが起こり、その時の印象を風景としてではなくイメージ化された仏の世界や生と死の結界のような世界を描こうと思ったこと、牛の目が綺麗だと一世を風靡し学生達に大きな影響を与えたインドの牛を描いた絵については、この時にだけ命が宿っているものがあって、今この世界を描こうと思って描けないことなど数々の作品のエピソードを紹介。そして、巨匠、高山辰雄の雨に関わる逸話を紹介し、ものすごい経験をしなければ描けない訳ではなく、どう受け止めてそれを心に反映させて表現するかが大事であって、受け取り方の豊かな人間になりたいといつも心に留めていることを披露した。

それを受けて長谷川氏は、「何気なく見落としてしまう中にも、本当は凄く大事なものを向こうから投げかけられているキッカケがあるかもしれない。それを日常で拾い上げられるよう努力している」と結んだ。



クロストーク

「今泉今右衛門×外館和子」

テーマ

「工芸の創造性」

日時 6月17日(日) / 10:30~12:00

場所 岐阜県美術館講堂

参加者 110人



数々の作品に触れている工芸評論家である外館氏と、片や日本を代表する表現者の一人である今泉氏のトークは、この岐阜の地のポテンシャルの高さから始まった。「子どもの頃から洗練されたデザインを見ている陶芸の産地の人達はそれを蓄積して自分の力にしている」とし、「環境とか文化とかその土地の持つ力が産地にはある」と説いた。

次に、工芸部門の受賞作品を中心に、どんなところに作者の創意、創造性、あるいは魅力を見出したのかの話に及んだ。二人のトークは作品の評価だけにとどまらず、作り手のストレートな思い、一番美しい心が形になって表れた時に第三者の感動を呼ぶこと、自分の思いを突き詰め、ある次元を突き抜けることで、私的な世界が普遍的なもの、多くの人が共感できるものとなること、無駄を削ぎ落としたり焦点を絞っていくと、ある時ある次元を超えたところに行き着き皆の感動を呼ぶこと、経験の積み重ねが蓄積となり、ある日ものすごく昇華された形で作品となって実現すること、したがって作り続けることが大事であると聴衆に訴えた。

続いて、外館氏が作り手である今泉氏から、長い歴史を背負っている家の継承者でありながら、さらに新しいものをどのように生み出したかを事例をもとに聞き出した。

自分の中から湧き出る思いがないままに物を作っている悲しさを抱き悩んでいた学生時代に、雪見酒に誘われ雪が降る中を歩いている時に「雪が降ってくる中心にすーっと吸い込まれる思いを抱いた」感動がずっと脳裏にあって、それがあある時ピタッと自分の家に伝わる技術と結びつき雪の結晶の文様が誕生したこと。曲線で水の流れを表現した色絵薄墨墨はじき水流文鉢や楚々とした梅をデザインした色絵薄墨墨はじき梅文蓋物が人からの依頼で誕生したことから、利休と長次郎との関係に例え、作り手だけで物が完成するのではなくて使い手と作り手との関係の中で最高の美意識が生まれること。こうしたエピソードを紹介しながら、今泉氏は、「自分の意識外のところ、自分が思っていることを超えた次元を目指すには、人との関わりとか、素材との関わりとか、違うものに取り組むことで見つかることなどが重要である」と説いた。

外館氏は、「日々の出会いの中にいろいろな創造のヒントが隠されており、自分が何かを生み出すための素材になっていく。そこで自分がどう反応できるか、その反応が今まで分かっていた自分以上の何か、自分が気付かなかった自分を引っ張り出せるかもしれないという、そういう創造の生まれ方がある」と総括した。





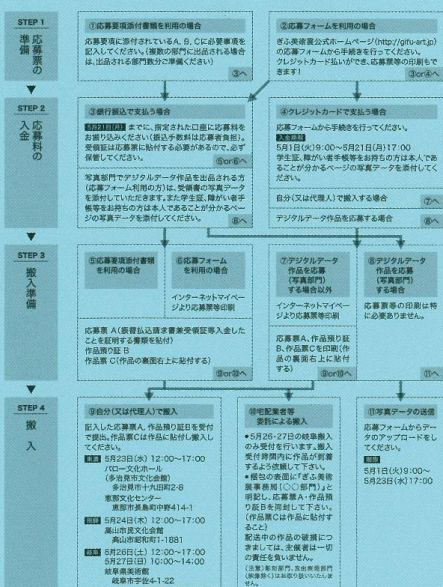
應募要項

第1回
ぎふ美術展応募要項 [詳細版]

[illegible][illegible]

【応募方法】

- ・作品応募にあたっての応募票等の作成については、応募要項添付書類による作成(①へ)、または、ご美術展公式ホームページの応募フォームによる作成(②へ)が可能です。
- ・応募料については銀行等振込、またはクレジットカードによるお支払いが可能です。



【搬出方法】

- ◆作品搬出には、本人・代理人・筆者を問わず「作品搬出証B」が必須です。
◆梱包材等は準備しておりません。
※出品時の梱包材はすべてお持ち帰りいただきます。廃棄等による搬入の場合は、梱包材はすべて持ち込みます。

	演出場所	① 入演・入選作品	② 選外作品
岐阜県 観入分	岐阜県美術館 岐阜市中央4-1-22 TEL 058-271-1313	6月17日(日) 15:00~17:00	6月10日(日) 12:00~17:00 6月12日(火) 12:00~17:00
愛媛 観入分	/R/一文化市館(多治見市文化会館) 多治見市四町2-8 TEL 0572-523-2500 市観文化センター 彦根市彦根島中町44-1 TEL 0573-25-5121		6月20日(水) 12:00~17:00
長野 観入分	高山市歴史文化会館 高山(寺前町)1-188-1 TEL 0577-33-8333		6月20日(水) 12:00~17:00

※指定の搬出日を過ぎても搬出されない作品で、ご連絡がつかない場合は処分することがあります。
必ず指定期間に搬出してください。

作品票C

作品裏面

作品形式と内容

種別

ジャンル

作品情報

題名

作者

制作年

制作地

制作

制作会社

制作経路

備考

作品票C

①氏名や題名については、原簿に掲載しますので、正確に記入してください。
②題名にスペースや句読点等「 $\cdot$ 」「 $\cdot$ 」「 $\cdot$ 」がある場合は、よくわかるように明記してください。
③題名で「○○○……」の点の数はいくつであっても3点(…)で統一させていただきますので、あらかじめご了承ください。

B 第1回 ぎふ美展情報 作品入札記 下記の作品を照かりました。平成16年 5月 (公財)岐阜市教育文化財団 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 30%;">部門</th> <th style="width: 20%;">受付 番号</th> <th style="width: 50%;">題名</th> </tr> <tr> <td>彫刻</td> <td>50000</td> <td>無名</td> </tr> <tr> <td>氏名</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>氏名</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> 番号() 券() 券 A 入札券を記入してください。 本誌に印刷された作品名を照らしますので、写真を保管してください。	部門	受付 番号	題名	彫刻	50000	無名	氏名			氏名			B 第1回 ぎふ美展情報 作品入札記 下記の作品を照かりました。平成16年 5月 (公財)岐阜市教育文化財団 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 30%;">部門</th> <th style="width: 20%;">受付 番号</th> <th style="width: 50%;">題名</th> </tr> <tr> <td>彫刻</td> <td>50000</td> <td>無名</td> </tr> <tr> <td>氏名</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>氏名</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> 番号() 券() 券 A 入札券を記入してください。 本誌に印刷された作品名を照らしますので、写真に保管してください。	部門	受付 番号	題名	彫刻	50000	無名	氏名			氏名		
部門	受付 番号	題名																							
彫刻	50000	無名																							
氏名																									
氏名																									
部門	受付 番号	題名																							
彫刻	50000	無名																							
氏名																									
氏名																									

5月28日(月) 10:30～ 岐阜県美術館 岐阜県美術館、往復バスで会場に申し込みに参加します。(5月14日(月)全席) 会場に申し込みがない場合は当日会場へお越しください。 希望者一人一人につき、往復の乗降バスで申し込んで下さい。 ※1枚のバスチケットで往復がふたたび利用は出来ません。 ※一人につき、1枚のバスのみ使用していただく予定です。 ※希望者多数の場合は、抽選により決まります。	
審 査 会 主 席 藤田 36641 岐阜県美術館 3-42 岐阜県文化センター2階美術室 5月28日(月)10:30開演 全公開観覧 岐阜県美術館文化財部 岐阜県文化センター文化財部 本日の観覧券の発行状況 全公開観覧券の発行状況	主 席 藤田 36641 岐阜県美術館 3-42 岐阜県文化センター2階美術室 5月28日(月)10:30開演 全公開観覧 岐阜県美術館文化財部 岐阜県文化センター文化財部 本日の観覧券の発行状況 全公開観覧券の発行状況
日 本 展 立 田 直 樹 西 村 俊 英 日本美術 立 田 俊 英 小宮 孝 彦 堀 江 誠 一 日本美術 小宮 孝 彦 清水 水 海 堀 江 誠 一	在籍美術家芸術家部員 日本美術 立 田 俊 英 小宮 孝 彦 堀 江 誠 一 日本美術 小宮 孝 彦 清水 水 海 堀 江 誠 一
審 査 員 今 井 幸 右衛門 内 田 和 子 佐 藤 光 雄 佐 藤 美 智 子 HASHI (尾村幸子) 室 賀 美 山 口 良 史 山 下 南 二	在籍美術家芸術家部員 立 田 俊 英 小宮 孝 彦 堀 江 誠 一 清水 水 海 堀 江 誠 一
賞 ぎふ美展賞、………各部門1点、記念品 優秀賞、………各部門1点、記念品 奨励賞、………各部門5点	在籍美術家芸術家部員 立 田 俊 英 小宮 孝 彦 堀 江 誠 一 清水 水 海 堀 江 誠 一
発 役 審査員、1週間程度で審査結果を郵送でご通知します。	在籍美術家芸術家部員 立 田 俊 英 小宮 孝 彦 堀 江 誠 一 清水 水 海 堀 江 誠 一
表 彰 式 (開 場 式) 6月9日(土) 10:00～ 岐阜県美術館 ※入賞の方には、表彰式(開場式)終了後、賞状をお渡しします。で、審査結果通知とご一緒ください。 当日参加できない方は、作品展示時に賞状をお渡しします。謝出交付時に申しお取りください。	在籍美術家芸術家部員 立 田 俊 英 小宮 孝 彦 堀 江 誠 一 清水 水 海 堀 江 誠 一
企画委員 日 本 展 山 下 南 二 新 展 堀 江 誠 一 新 展 堀 江 誠 一 新 展 堀 江 誠 一	在籍美術家芸術家部員 立 田 俊 英 小宮 孝 彦 堀 江 誠 一 清水 水 海 堀 江 誠 一

事務局・お問合せ先
 公益財団法人
 岐阜県教育文化財団

〒502-0841 岐阜市学園町3-42 ぎふ清流文化プラザ1階
 TEL 058-233-8161 FAX 058-233-5811
 Email gifu@gifuken.or.jp
 公式ホームページ <http://www.gifu-art.jp>

A 第1回 さくら美濃祭 応募票 ▶ 太枠内を正確にご記入ください。		事務局使用欄 〇 1 2	
ふりがな		性 別	年齢
氏名(本名)		年齢は、平成30年4月1日現在の年齢を記入してください。	
ふりがな			
題名			
住所	〒() () () () () () 都道府県 市区町村 郵便番号		
連絡先	<連絡先> 〒() () () () () () <住所でも連絡先がとれる電話番号> 〒() () () () () ()		
審査結果の通知先	〒() () () () () () (上記の住所と異なる場合は記入してください。[別]に場合は記入の必要はありません)		
提出方法	1. 送付する郵便物に貼付してください。 ☐ 個人引取り ☐ 代理人引取り(代理人氏名:)		
提出方法	郵便物への出品状況 (送当時に丸を打ってください) 日本画・洋画・彫刻・工芸・書・写真・自由表現		
区分	銀貨・金貨・紙幣 一般・大学生	郵送金額 円	事務局使用欄
依頼書のコピーを提出してください。			
チェック欄 (本人欄にご希望の〆を打たなければなりません)			
☐ 作品や順番など、虫、虫の雨、休等についていないことを確認しました。			
☐ 作品領り証には作品に貼付しました。			
☐ 依頼書のコピーを応募票に貼付しました。(クレジットカード実払の場合を除く)			
☐ 著作権・肖像権など、他人の権利を侵害していません。			

A 第1回 きふ美術館 応募票		審査結果		受付番号		建簿番号	
▶ 大枠内を正確にご記入ください。 (※裏)							
応募部門		日本画・洋画・彫刻・工芸・書・写真・表現				開出日	
		題 名 (上段のみが主) ナメ(読み) / オウ(姓) / 氏名 (f.m), 姓 名 (f.m) 作品の大きさ等 (縦・横段等を含む) 作品の材質 (※紙・土器・自由表現・陶板の品を貼るは別部門)					
応募作品							
紙文 (書道部門)		文字性の作品は、必ず記載してください。					
展示の目安・ 配列図等		必要に応じて、展示の向きを示す図、安定性を考慮した製造図解、 必要撮影の図の用紙事項を記載(または貼付)してください。 新作品、イラストレーション・作品の複製、配列図を記載(または貼付)してください。					
制作要領・ コンセプト等 (任意)		制作要領やコンセプト等が必要であれば、自由に記載してください。					

清流の国ぎふ芸術祭

第1回ぎふ美術展応募要項

主催：岐阜県・岐阜県美術館、公益財団法人 岐阜県教育文化財団

【開催趣旨】

昭和21年から平成27年まで、69回の歴史を誇る「岐阜県美術館」について、時代の変遷や表現の多様化に合わせた見直しを行い、より多くの県民のみなさんが美術に親しむきっかけとなるように、また、創造力、鑑賞力の向上に役立てていただきたいという想いをこめて、県民に広く発表する機会を提供する公募展「ぎふ美術展」を創設します。

【部門】

日本画・洋画・彫刻・工芸・書・写真・自由表現

【展覧会日時】

6月9日（土）～17日（日） 10:00～18:00（最終日は14:30まで）
（6月11日（月）は休館）
・入賞、入選の作品を展示します。

【展覧会場】

岐阜県美術館（岐阜市宇佐 4-1-22）

【応募規定】

- ・応募資格：制限ありません。
- ・応募人数：1部門につき最大1点
- ・応募料：1点につき2,000円（ただし、大学生及びこれに準ずる方は1,000円、高校生以下及び障がい者手帳をお持ちの方は無料）

高専校生以下では、平成30年4月1日現在において、高等学校・特別支援学校高等部在籍、又は18歳未満の者を指します。

応募料の支払い方法等については、後日HPなどでお知らせいたします。

【出品の条件】

- ・作品は自己の創作したものであること。
- ・作品は審査を伴う会場で展示されているものでないこと。
- ・作品は著作権、肖像権など、他人の権利を侵害しないものであること。
- ・作品は芸術上の通常の選評に支障を与えないものであること。
- （危険物、動植物、腐敗の恐れのあるもの等、展示場の環境に影響を及ぼすものは不可）
- ・展示や運搬に危険を伴う作品、汚損・破損の恐れのある作品は受け付けません。また、作品や梱包に、虫や虫の卵、紙等がついていないことを梱包前に必ず確認してください。
- ・作品の搬入受付後に作品に変更を加えることは、原則として認めません。

【作品規格】

下記規格の範囲内で、自由に出品することができます。

日本画	1辺 50cm程度から縦 250cm・横 200cm程度とする。壁面展示が可能なものに限り、額装する場合は、作品外寸 5cm以内とし、作品重量に耐えうる展示用金具をつけること。なお、ガラス、アクリル共に不可とする。
洋画	1辺 50cm程度から縦 250cm・横 200cm程度とする。壁面展示が可能なものに限り、額装する場合は、作品外寸 5cm以内とし、作品重量に耐えうる展示用金具をつけること。なお、ガラス、アクリル共に不可とする。
彫刻	高さ 250cm、横・奥行 200cm程度（台座含む）まで、重量 1t 程度までとする。また作品は応募者の責任において、審査会場への搬入を行うこと。
工芸	陶器・磁器・漆・金属・染織・木工・竹工・七宝・草・ガラス・紙・人形・その他とする。 平面作品については、縦 250cm・横 200cm程度、立体作品については、高さ 250cm、横・奥行 200cm程度まで、重量 200kg 程度までとする。組作品の場合、個数は問われないが、上記範囲内に納まるように配置すること。また、必要に応じて展示用具を添付すること。
書	縦 250cm・横 200cm程度までとする。壁面展示が可能なものに限り、額装の場合は、ガラス、アクリル共に不可。ただし、縦横及び半切（1.5尺×6.5尺）以下の作品はアクリル可。また、作品重量に耐えうる展示用金具をつけること。文字性の有無は問わない。なお、文字性のある作品については必ず横文をつけること。
写真	プリント作品については、縦 50cm・横 200cm程度までとし、ペタリ張りまたは額装すること。縮写真の場合、枚数は問わないが、上記範囲内に納まるように配置すること。額装する場合は、作品外寸 5cm以内とし、作品重量に耐えうる展示用金具をつけること。なお、ガラス、アクリル共に不可とする。
自由表現	デジタルデータ作品については、10MB以下とする。公式ホームページの応募フォームからの応募とし、JPEG形式とするものとする。縮写真の場合、枚数については自由だが、合計 50MB以下とする。

※必要に応じて、展示の向きを示す図、安定性を考慮した構造略図を添付してください。

また、組作品、インスタレーション作品などの場合は、配列図を添付してください。
※写真部門におけるデジタルデータ作品について、審査及び展示は 40 インチ程度のディスプレイによるものとし、表示サイズ等については指定できません。また展示方法はディスプレイでのスライドショー等によるものとし、入選した全ての作品が同時展示されるものではありません。
※自由表現部門における映像作品について、審査及び展示における再生環境の音源は2chとし、音量については主催者が決定します。また再生機器については 40 インチ程度のディスプレイによるものとし、表示サイズ等については指定できません。

【留意事項】

- ・本展の事後や、不可抗力による作品の破損については、主催者は責任を負いません。
- ・搬出期限を過ぎた作品の廃棄については、主催者は一切の責任を負いません。
- ・作品の裏面に作品整理のための用紙を貼付、及び受付番号を記載させていただきます。
- ・氏名・題名を自録・キャプション・賞状等一併添付する際は、JIS第二水準までとさせていただきます。（旧字体等は漢字換えていただく場合があります）
- ・主催者は、展覧会の記録、広報の目的で、作品の写真撮影及び複製ができるものとします。また、来館者による会場風景の撮影ならびにSNS等での情報発信についても可能とします。
- ・主催者は、展覧会の結果発表、記録、広報の目的で、入賞・入選の方の部門、氏名（番号含む）、お住まいの市町村名、作品の題名、作品の写真を発表できるものとします。
- ・その他、応募要項にご記入いただいた個人情報については、事務局からの連絡・質問、審査結果の通知、入賞者への図録送付、次回応募要項送付に利用させていただきます。

【事前協議】

- ・電話を使用する場合、またその他作品規格に記載のない事項については、事務局と事前協議が必要です。なお、協議の上、展示が不可なりと判断された場合は、出品を認めないことがありますので、ご了承ください。

【出品方法】

・作品搬入

岐阜 5月26日（土）～5月27日（日）
岐阜県美術館・岐阜市宇佐 4-1-22 TEL: 058-271-1313
東濃 5月23日（木）
パロー文化ホール（多岐見市文化会館）（多岐見市十九町 2-8）
TEL: 0572-23-2600
底座文化センター（恵那市長島町中野 414-1 TEL: 0573-25-5121）
飛騨 5月24日（木）
高山市民文化会館（高山市昭和町 1-188-1 TEL: 0577-33-9333）
※出品方法及び搬出等の詳細につきましては、後日HPなどでお知らせいたします。

【審査会日時】

5月28日（月） 岐阜県美術館
※審査会の詳細につきましては、後日HPなどでお知らせいたします。

【審査員】（部門及び50名編）

日本画	立島 恵 西田 俊英	（佐藤美術館学芸部長） （日本画家・武蔵野美術大学教授）
洋画	小笠原 宣 絹谷 幸二	（洋画家） （洋画家・東京藝術大学名誉教授）
彫刻	小清水 漸 澁川 喜一	（彫刻家・京都市立芸術大学名誉教授） （彫刻家・東京藝術大学名誉教授）
工芸	今泉 今右衛門 外館 和子	（陶芸家） （工芸評論家）
書	新井 光風 笠嶋 忍幸	（書家・大東文化大学名誉教授） （出光美術館学芸課長）
写真	笠原 繁智子 HAS H I 橋村幸紀	（東京都写真美術館事業企画課長） （写真家）
自由表現	山口 良臣 山下 篤二	（美術家・名古屋国立大学名誉教授） （美術史家・明治学院大学教授）

【賞】

- ・ぎふ美術展賞・・・各部門1点
- ・優秀賞・・・各部門2点
- ・奨励賞・・・各部門若干名

※ぎふ美術鑑賞及び優秀賞には記念品を贈呈いたします。

【発表】 審査後、1週間程度で審査結果を郵送で通知します。

【表彰式（開場式）】 6月9日（土） 岐阜県美術館

【清流の国ぎふ芸術祭 ぎふ美術展企画委員会】（50名編）

委員長	神戸 峰男
副委員長	名原 隆司
委員	河西 栄二 鈴木 徹 長谷川 喜久 古田 菜穂子 前田 寛二郎 横山 豊彦

（事務局：お問い合わせ先）

公益財団法人 岐阜県教育文化財団
〒502-0841 岐阜市学園町3-42 ぎふ清流文化プラザ1F
TEL 058-233-5810 FAX 058-233-5811
Email geof@g-kyobun.or.jp

応募状況

第1回ぎふ美術展 応募・審査結果

	日本画	洋画	彫刻	工芸	書	写真	自由表現	合計
応募数	66	205	28	98	217	209	132	955
ぎふ美術展賞	1	1	1	1	1	1	0	6
優秀賞	2	2	2	2	2	2	2	14
奨励賞	4	3	4	4	2	3	2	22
入選	30	100	11	40	49	58	27	315
入賞・入選	37	106	18	47	54	64	31	357
入賞・入選率	56.1%	51.7%	64.3%	48.0%	24.9%	30.6%	23.5%	37.4%
県内	58	188	25	84	137	201	75	768
県外	8	17	3	14	80	8	57	187
県外割合	12.1%	8.3%	10.7%	14.3%	36.9%	3.8%	43.2%	19.6%
平均年齢	67.4	56.2	51.3	57.0	39.4	57.2	43.7	53.2

市町村・県別の 応募者数

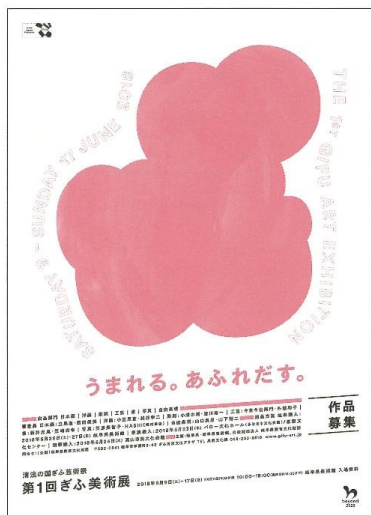
【県内】

市町村	計	市町村	計
岐阜市	188	岐南町	8
大垣市	73	笠松町	11
高山市	44	養老町	14
多治見市	27	垂井町	14
関市	31	関ヶ原町	2
中津川市	33	神戸町	4
美濃市	6	輪之内町	3
瑞浪市	7	安八町	3
羽島市	19	揖斐川町	9
恵那市	13	大野町	7
美濃加茂市	14	池田町	7
土岐市	6	北方町	10
各務原市	50	坂祝町	6
可児市	41	富加町	2
山県市	16	川辺町	0
瑞穂市	17	七宗町	0
飛騨市	17	八百津町	5
本巣市	24	白川町	1
郡上市	9	東白川村	0
下呂市	7	御嵩町	11
海津市	9	白川村	0
計		768	

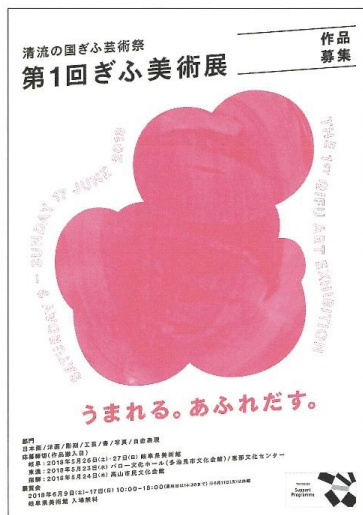
【県外】

都道府県	計
東京都	8
神奈川県	2
富山県	1
石川県	4
長野県	1
静岡県	121
愛知県	38
三重県	4
滋賀県	1
京都府	1
大阪府	3
福岡県	1
宮崎県	1
沖縄県	1
計	187

報 廣



作品募集ポスター



作品募集チラシ(表)



作品募集チラシ(裏)



公式ホームページ



岐阜新聞広告(H30.3.23)



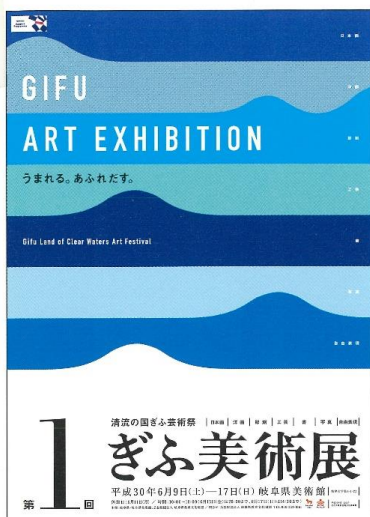
中日新聞広告(H30.3.23)



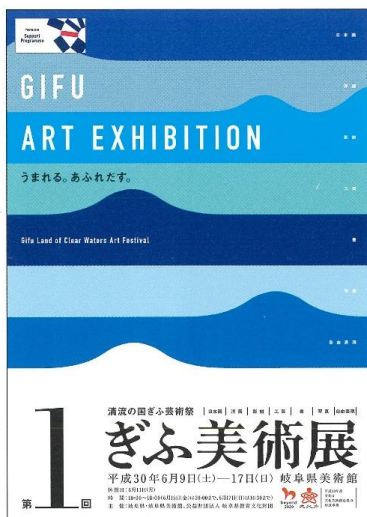
岐阜新聞広告(H30.5.16)



岐阜新聞広告(H30.6.15)



展覧会ポスター



展覧会チラシ(表)



展覧会チラシ(裏)



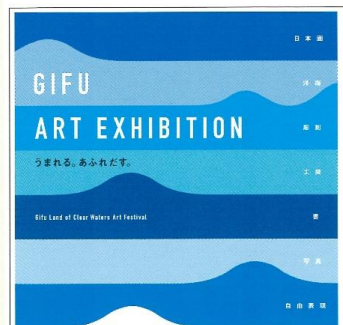
第48回日彫展図録広告(H30.4月)



美術の窓 広告(H30.5月号)



GIFUTO広告(H30.6月号)



岐阜新聞広告(H30.6.2)





美術館外看板(南)



美術館外看板(北)



美術館外ポスタータワー



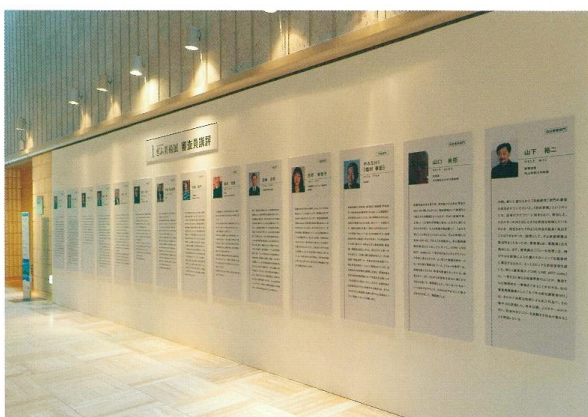
会場サイン



会場サイン



会場サイン



審査員講評パネル

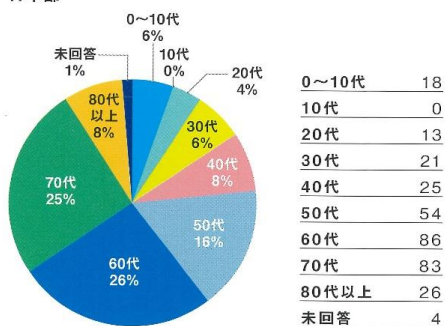
来場者アンケート

対象者 第1回ぎふ美術展来場者(9,505人)

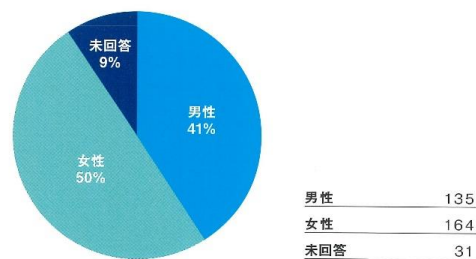
調査方法 会場内にアンケートコーナーを設置。紙面による任意のアンケート調査。

回答数 330件

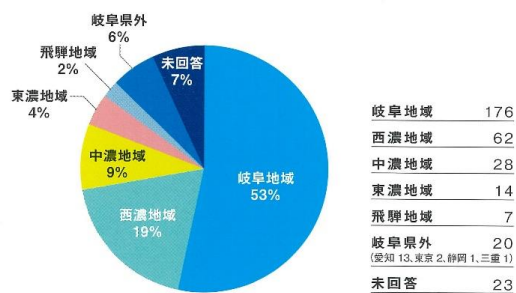
1. 年齢



2. 性別

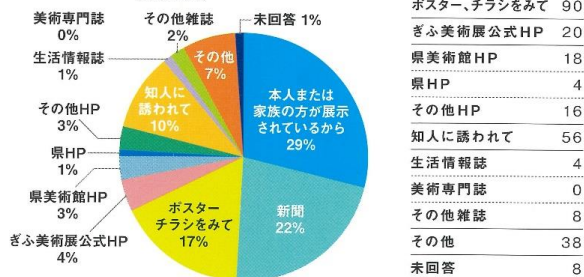


3. お住まいの地域

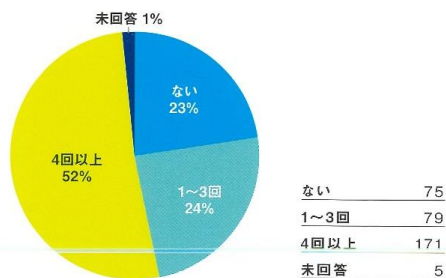


4. ぎふ美術展をどちらで お知りになりましたか。

(複数回答可)

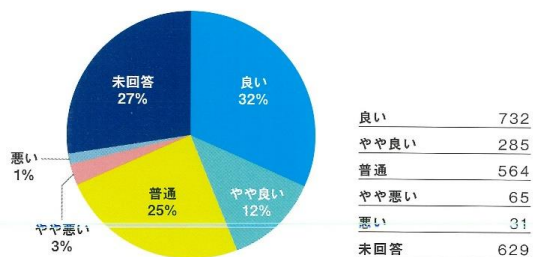


5. これまで岐阜県美術展(県展)を 何回ご覧になられたことがありますか。



6. 展示場所、展示方法についてお答えください。

(7部門合計)



運営体制

清流の国ぎふ芸術祭 運営委員会 委員名簿

役職	氏名	所属機関・団体役職
委員長	吉田 豊	岐阜県芸術文化会議名誉顧問
委員（五十音順）	臼井 千里	書家、岐阜県世界青年友の会常務理事
	角田 菜穂子	児童文学作家
	加藤 幸兵衛	陶芸家、(株)幸兵衛窯代表取締役
	神戸 峰男	日本芸術院会員、名古屋芸術大学名誉教授
	桑原 鎭司	洋画家
	宗宮 喜代子	東京外国語大学名誉教授、岐阜聖徳学園大学名誉教授
	土屋 明之	中部学院大学教授、岐阜県芸術文化会議会長
	仲居 宏二	聖心女子大学教授
	日比野 克彦	岐阜県美術館館長、アーティスト、東京藝術大学美術学部長
	廣瀬 輝	中日本高速道路(株) 参与

ぎふ美術展企画委員会 委員名簿

役職	氏名	所属機関・団体役職
委員長	神戸 峰男	日本芸術院会員、名古屋芸術大学名誉教授
副委員長	桑原 鎭司	洋画家
委員（五十音順）	河西 栄二	岐阜大学教育学部教授
	鈴木 徹	陶芸家
	長谷川 喜久	日本画家、名古屋芸術大学教授
	古田 菜穂子	(公財)岐阜県教育文化財団文化芸術アドバイザー
	前田 真二郎	情報科学芸術大学院大学(IAMAS)教授
	横山 豊蘭	書道家、アーティスト、名古屋芸術大学非常勤講師

第1回ぎふ美術展を
終えて

清流の国ぎふ芸術祭「第1回ぎふ美術展」の開催には、これまでの「岐阜県美術展」の伝統を大切にしながらも大胆な刷新をしていかなければならないという課題がありました。県民の皆様幅広く発表の機会を提供する公募展として多くの方々が応募できるものにするため、展覧会の内容について、企画委員会ですらに議論を重ねてまいりました。

その中でまず、審査方法について大きく見直しました。各部門の審査員を2名ずつとし、各分野の第一人者である方々にご就任いただきました。

作品規格についても大幅に緩和し、さらに、新たに「自由表現」部門を創設したことにより、従来の部門の枠組みに収まらないと思われる作品や、部門をまたぐような作品についても、幅広く応募いただけることといたしました。

これらの見直しで、非常に自由度の高い公募展としたことにより、第69回岐阜県美術展を大きく上回る作品を出品いただきました。

審査員の方々からも、「これからが楽しみな展覧会なので、今後とも益々素敵な展覧会にしてほしい」、「全国の県展が問題を抱える中でモデルケースになってほしい」などと意見をいただきました。

また、「ぎふ美術展」の会期中には、審査員などによるトークイベントや作品講評会などを開催し、多くの方々に参加いただきました。携わってくださった諸先生から、出品作品への講評や、ご自身の表現活動の考え方などのお話をいただき、聴講された皆さんにとっても、大変良い刺激となったのではないかと考えております。

今回のぎふ美術展は、多くの皆様からご好評をいただき、大変良い展覧会になったと考えております。関わっていただいた全ての皆様に心から感謝いたします。

今後も、「ぎふ美術展」が進歩し続け、第2回、第3回と、より県民の皆様が美術に親しみを持ってもらえる公募展となり、夢を語っていただける「場」となることを願ってやみません。

ぎふ美術展企画委員会委員長 神戸 峰男

清流の国ぎふ芸術祭

第1回ぎふ美術展

Gifu Land of Clear Waters Art Festival

THE 1st GIFU ART EXHIBITION

発行年：平成30年10月発行

アートディレクション	上田英司（シルシ）
グラフィックデザイン	鈴木輝（シルシ）
印刷	セキ株式会社
撮影	伊藤公一 デジックスアンドリンク株式会社
編集・発行	岐阜県 公益財団法人 岐阜県教育文化財団

本書掲載の肩書きは平成30年8月1日現在のものです。



平成30年度 文化庁 文化芸術創造拠点形成事業

うまれる。あふれだす。